

第47回全道造形(図工美術)教育研究大会

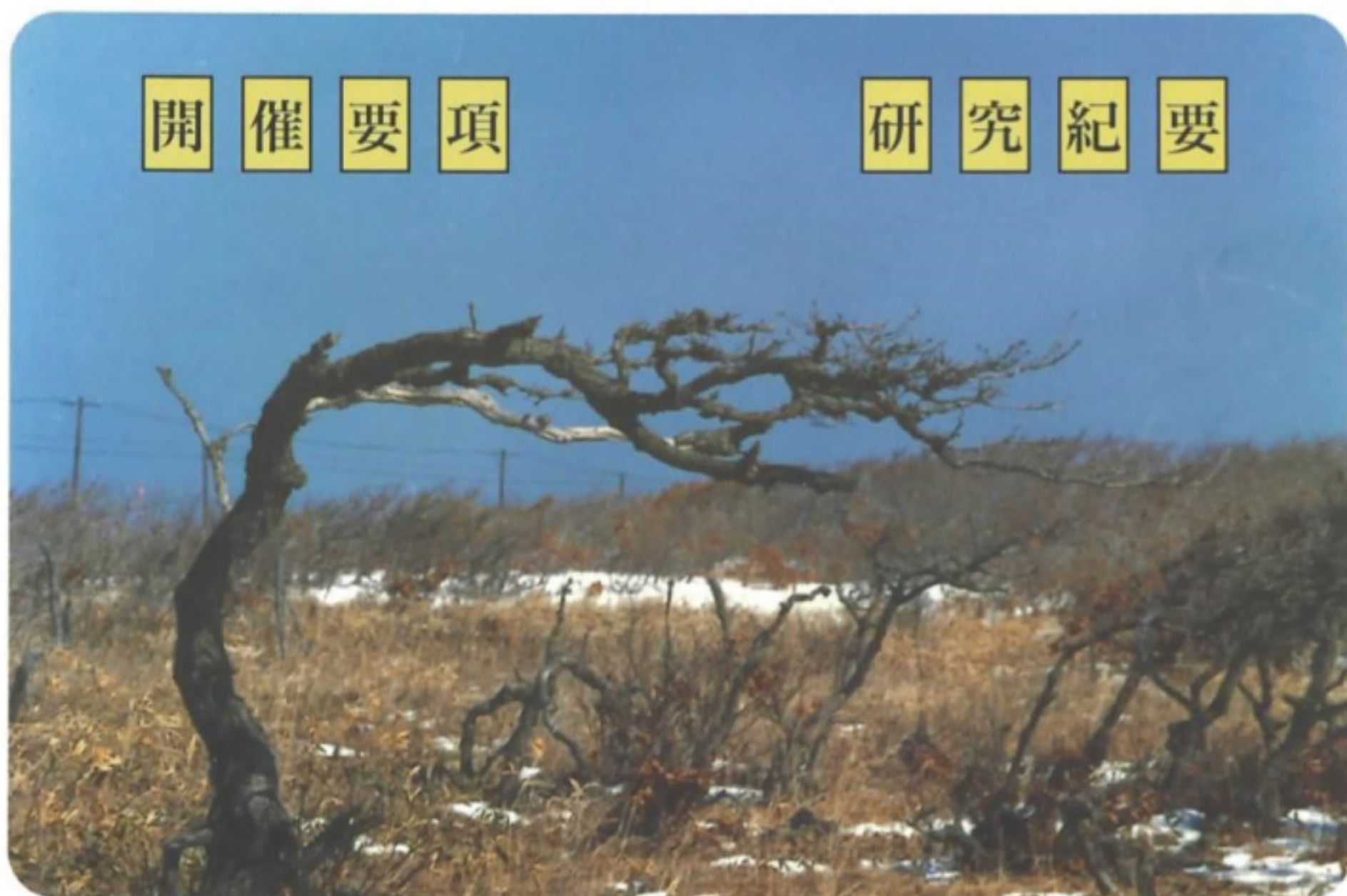
根室大会

— 研究主題 —

感性から発し 躍動する力を育む 造形学習を!

開 催 要 項

研 究 紀 要



最東端の地で 東へ東へとなびくミズナラの木

1997

7.28 (月) 第1日目 根室市立花咲小学校

29 (火) 第2日目 根室市総合文化会館

47th NEMURO



〔シンボルマークについて〕

「今こそ郷土根室を豊かな感性で掘り起こそう！」という大会スローガンは、改めて郷土根室への見つめ直しをうたったものである。

根室の代表的なイメージを考え、マーク化したものである。

根室といえば日本で一番早く昇る「太陽」と根室の木「ミズナラ」である。

大きな円は「太陽」をイメージしており、もう一つの黒い太線は「ミズナラ」を簡略化して表したものであるが、更にその流線は造形行為に参加し、鼓舞する子どもの姿を、また日本最東端根室におけるEASTの「E」を模したものである。

館 山 唯 郎

第47回 全道造形(図工美術)教育研究大会

根室大会

根室大会研究主題

感性から発し躍動する力を育む造形学習を!

1997

7.28(月) 第1日目 根室市立花咲小学校

29(火) 第2日目 根室市総合文化会館

目 次

挨拶	3
祝辞	5
日程	8
会場案内図	9
開会式次第	12
閉会式次第	12
記念講演	13
研究概要	14
北海道造形教育連盟研究主題	14
根室大会研究主題	16
公開授業	21
公開授業一覧	22
公開授業概要	23
提言要旨	31
分科会構成一覧	32
分科会提言要旨	33
全道造形教育ネットワーク紹介	46
北海道造形教育連盟規約	48
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	49
平成9年度 北海道造形教育連盟名簿	51
根室大会役員一覧	52

根室大会に寄せて



北海道造形教育連盟委員長 吉田 俊 雄

この度、親潮の海霧と暁が織りなす大自然の懐に抱かれた道東の根室の地で、全道大会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。全道造形教育研究大会は、第1回札幌大会より毎年とぎれることなく、道内各地を巡って開催され47回を数えますが、根室での大会は今回が初めてであり、しかも、根室管内は1市4町の広い地域で会員数も少ない中での準備は、言葉ではとても言い尽くせないご苦勞があったものと推察し感謝いたしております。

中教審が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」について審議のまとめを公表し、今後の教育の目標として「生きる力」の育成と「ゆとり」の確保を掲げておりますが、未来に向けて無限の可能性を内に秘めた子ども達の「生きる力」は、日頃の学習活動の中で感動体験を十分に積み重ねることにより、五感を通して培われる「感性」が基礎となって育まれるものと思います。

今年は現行教育制度が五十周年を迎え、日本の学校教育の節目の年でもあり、根室大会では、変化の激しい社会に生きるこれからの子ども達にとって大切な資質や能力を育てるために、造形教育が果たしてきた役割や価値を再認識し、今日造形教育に求められている教材観や指導法が、「感性から発し、躍動する力を育む造形学習」や提言を通して具体的に話し合われることを期待しています。

最後になりましたが、運営にあられた諸先生方、会場校の校長先生及び教職員の方々、大会にご支援ご協力をいただいた北海道教育庁根室教育局はじめ根室市教育委員会並びに関係諸機関の皆様に対し、心から感謝申し上げますとともに厚くお礼を申し上げます。



根室へようこそ



北海道造形教育研究大会

根室大会実行委員長 鍋谷 尊之

桜は夏の暑さをしのぎ、冬の厳しさに耐え、春になると、みごとな美しさを見せてくれます。先生になって間もない数名の教師が、経験不足を承知の上で、児童生徒のため、自分のため、根室のためにと、授業や提言を引き受け鋭意努力しています。そんな彼等を、厳寒の地で美しい花を咲かせる千島桜のように、皆さんの英知で教師としての芽を開花させ、大きく育てていただきたいのです。道内の各地からご参集下さいました教育関係者の皆様に、我々の頑張りを少しでも見ていただこうと、校長自らが授業をし、図工美術教育の原点に立った研修になればと、目を輝かせているところです。全道造形教育研究大会・根室大会の開催は、長い間の夢だっただけに、何かと責任を果たそうと努力しておりますが、人材不足のため不行届きの点が多々ありますことを大変申し訳なく思っています。「霧も深い情けも深い、根室住みよい人ばかり」と盆唄にも歌われた霧と国境の町根室市へ、遠路はるばるお越し下さいまして、心からご歓迎致します。根室市は太平洋とオホーツクに突き出た半島の町だけに、海の幸に恵まれ、花咲蟹・歯舞昆布の味覚は格別です。地酒の北の勝も多くのファンを持つ銘酒です。どうぞご賞味下さい。

本研究大会の実施に際し、根室教育局・各市町教育委員会・全道造形教育連盟の各支部や出版教

材関係者など、多くの方々の多大なご指導、ご支援、ご協力を賜りましたことを心からお礼申し上げます。来根の機会を利用して、車石・野付湾の打瀬船・地球が丸く見える開陽台・サーモンパーク・光り苔等に足を延ばして、根室観光を楽しんでいただければ、こんな嬉しいことはありません。



子供の感性をゆり動かし、 豊かな創造活動を



北海道教育庁根室教育局長 渡部 英 昭

第47回全道造形教育研究大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、道東の地、ここ根室市において盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、北海道造形教育連盟が発足以来、一貫して子供のもつ豊かな感性をゆり動かし、創造的な表現の可能性を追究した実践を積み重ねられ、長年にわたり本道の造形教育の発展に大きな役割を果たしてこられましたことに深く敬意を表します。

さて、二十一世紀への懸け橋となる今日、学校教育においては、子供たちが人間としての心の豊かさを培い、主体的に生きていくことができる資質や能力を育成することが求められております。とりわけ、図画工作科・美術科においては、造形的な創造活動を一層重視し、創造性の基礎としての表現製作の能力を高めるとともに、情操を豊かにする指導の充実を図ることが期待されております。

そのためには、子供たちが自分の思いや感覚などのよさを十分に発揮し、表現活動を楽しむ子供主体の創造活動の展開などを工夫することが大切であります。

このような中で、本研究大会が「感性から発し、躍動する力を育む、造形学習を」を研究主題に掲げ、造形教育に携わっておられる先生方が一堂に

会し、公開授業や研究発表をもとに研究協議を深められますことは、誠に時宜を得たものであります。

本研究大会の成果が広く紹介され、北海道の造形教育の一層の充実に大きく寄与するものと期待しております。

終わりに、本研究大会の開催に当たって御尽力いただきました関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、実り多い研究大会になることを心から祈念して、お祝いの言葉といたします。



歓迎のことば



根室市長 大矢 快治

第47回全道造形教育研究大会が当市で開催されるにあたり、全道各地からご来根下さいました関係各位に対しまして心より歓迎の挨拶を申し上げます。

近年私たちを取り巻く社会環境は、科学技術の急速な発達や経済の発展、情報化の進展により確かに生活の豊かさや便利さをもたらしていますが、その反面情報の過多や、社会構造の複雑化などから子供たちにもストレスが増大し、また少子化等に起因する、与えられ過ぎによる創造力の欠如など、子供の心身の健全な発展を阻害する様々な問題が指摘されております。更に生涯を通して学び自らを高めていく生涯学習の重要性が提起される折、豊かな人間性を育む芸術・文化・工芸との触れ合いが強く求められております。

この様な中、豊かな感性や創造力を養う造形教育を通して、未来を担う児童、生徒の健やかな成長を支えられている関係皆様の日頃のご尽力に対し、敬意と感謝の意を表しますとともに教育充実のため、8分科会に分かれて研究討議されるなど意義ある本大会に臨まれることに心からご期待申し上げます。

当市は、明治2年に開基された、北海道の中でも最も歴史ある水産業を基幹産業とした街で、北方領土に隣接した北方領土返還運動原点の街であります。水産・酪農業も厳しい国際環境の狭間に

あつて、決して予断を許さない状況にありますが、私たちは知恵と力を結集し「北方圏への拠点都市ねむろ」構築を合い言葉として街づくりに励んでいるところであります。是非、この度のご来根を契機に当市に熱い目を向けて頂き、また全国民の悲願である北方領土返還実現への更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本土最東端、日本で一番朝日に近い「ねむろ」の人・味覚・風景とのふれあいが快い思い出として皆様のお心に残れば大変幸いに存じます。

終わりに、本大会が皆さんの熱意によりまして大成功におさめられますとともに、関係者皆様の益々のご発展とご健勝、ご多幸を心から祈念し、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば



根室市立花咲小学校長 小林 哲夫

第47回全道造形教育研究大会根室大会に全道各地から参加される皆様を、会場校の職員一同、心よりご歓迎申し上げます。

当地根室は、北海道の東端に位置するへき遠の地ではありますが、その歴史は古く、明治2年の開基は北海道の草分け的存在であり、江戸時代に、既にロシアとの交易があったことも郷土史に記されております。

さて、本校は、明治9年の創立になる、根室管内最古にして、全道でも十指に入る歴史と伝統のある学校であり、昨年度、百二十周年の記念式典を終えたばかりのところでございます。因みに、本校の校名は、当時の北海道開拓使長官黒田清隆の命名（「花咲学校」）になるものであり、私たちはそれを誇りとし、職員、児童、父母が一丸となって日々の教育実践に精進しているところでございます。

本校では、児童会活動の在り方を見直し、本年度より、これまでのお仕着せの委員会活動から脱却して、児童自らが、自分たちの学校生活をより良いものにするために必要と思われるものを組織し、志を同じうする者の集いによって自発的に活動を進める、という仕組みのものにいたしました。

これは、「自分の考えを持ち、生き生きと表現できる子どもの育成」という本校の研究主題に、そして更には、教育界で強く叫ばれている「生き

る力」の育成にるなかるものであり、各領域の学習活動の中で、その一端をご覧いただけるものと確信いたしております。最後になりましたが、本研究大会が多くの成果を上げ、成功裏に終わりますようにご祈念申し上げます、歓迎のことばといたします。





第47回

全道造形教育研究大会根室大会

北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方

根室大会研究主題

感性から発し躍動する力を育む造形学習を!

会 期 平成9年7月28日(月)・29日(火)

会 場 根室市立花咲小学校(1日目)・根室市総合文化会館(2日目)

日 程 ◎大会第1日目 7月28日(月) 根室市立花咲小学校

8:30	10:10	11:00	11:50	15:30	20:00
受付	開会式 研究発表	歓迎 セレモニー	移動・休憩 公開授業	昼食 分科会 研究協議	市内名所 観光めぐり スケッチ 旅行 歓迎交流会
9:30	10:40	12:30	18:00		

◎大会第2日目 7月29日(火) 根室市総合文化会館

8:30	9:50	11:30	
受付	体験学習 ☆造形遊び	移動・休憩 記念講演会 根室の植物	休憩・準備 閉会式
9:00	10:10	11:40	

- 主 催 北海道造形教育連盟 ・ 根室造形教育連盟
 主 管 第47回全道造形教育研究大会・根室大会実行委員会
 共 催 北海道教育委員会・根室市教育委員会
 後 援 別海町教育委員会・中標津町教育委員会・標津町教育委員会
 羅臼町教育委員会・根室教育研究所・根室管内小中学校校長会
 北海道根室支部高等学校校長会・根室市小中学校校長会
 中標津町教育研究会・根室市教育研究会・別海町教育研究会
 中標津町教育研究会・標津町サークル協議会・羅臼町教育研究会

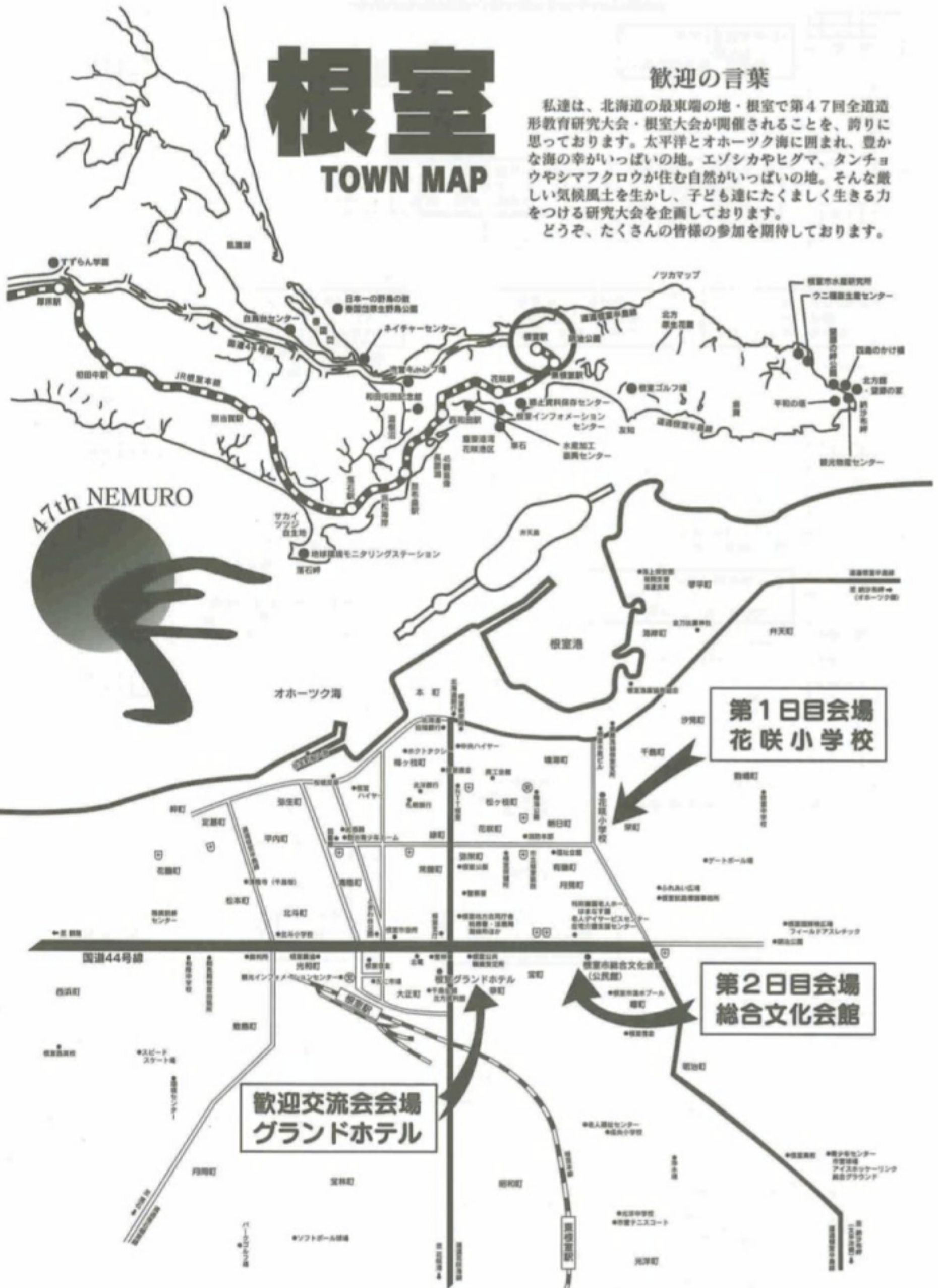
根室

TOWN MAP

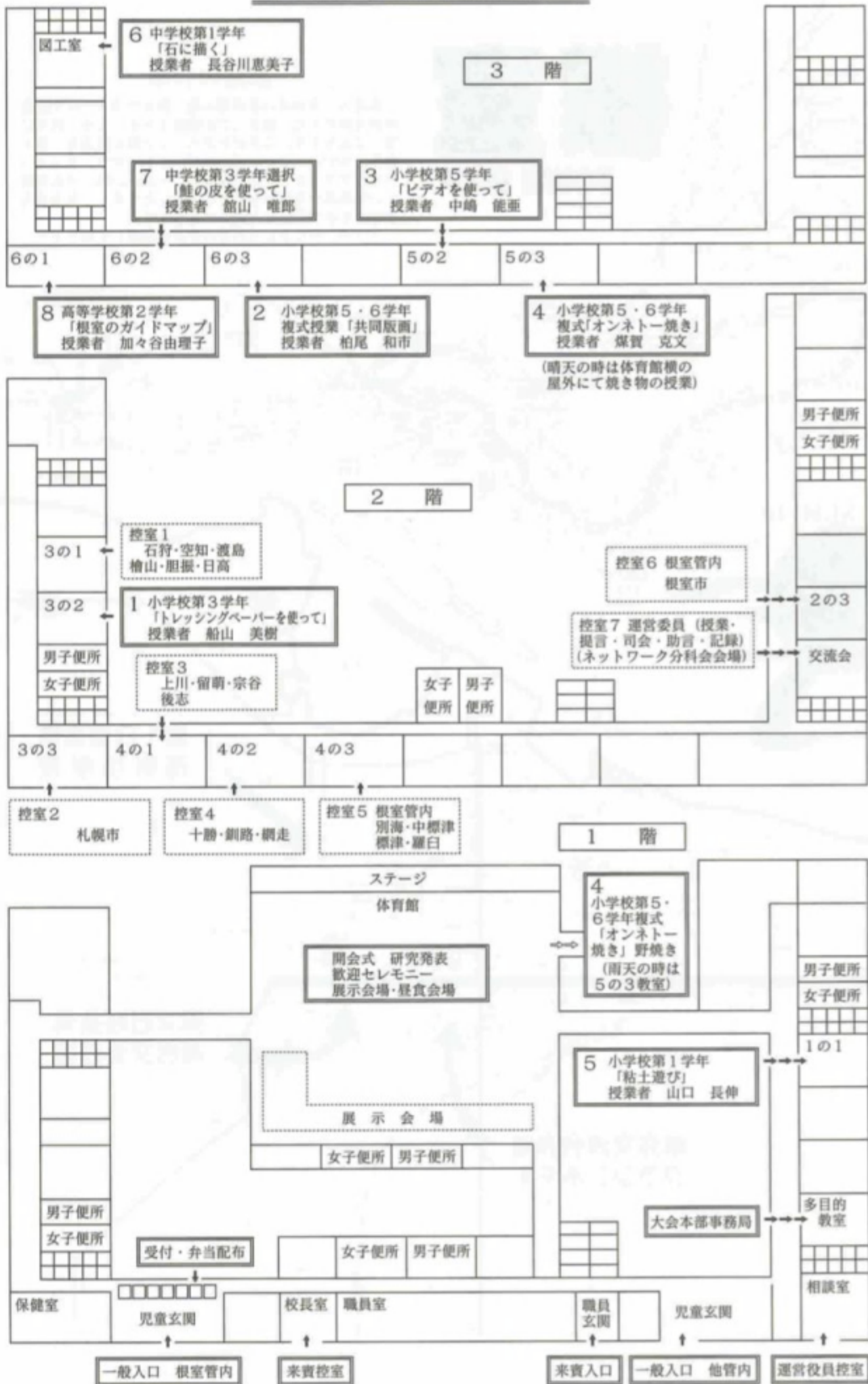
歓迎の言葉

私達は、北海道の最東端の地・根室で第47回全道造形教育研究大会・根室大会が開催されることを、誇りに思っております。太平洋とオホーツク海に囲まれ、豊かな海の幸がいっぱいの地。エゾシカやヒグマ、タンチョウやシマフクロウが住む自然がいっぱいの地。そんな厳しい気候風土を生かし、子ども達にたくましく生きる力をつける研究大会を企画しております。

どうぞ、たくさんの皆様の参加を期待しております。

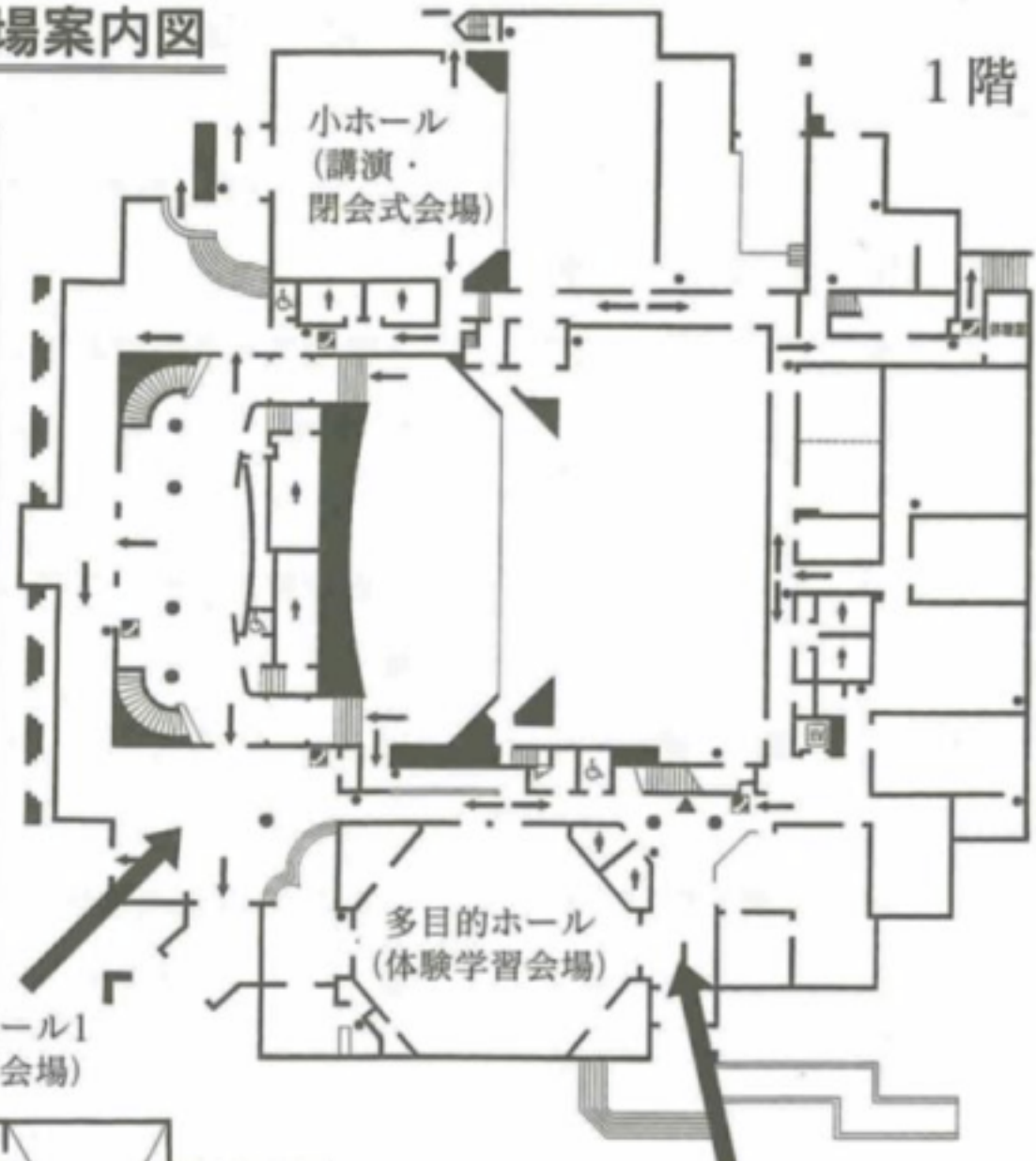


花咲小学校会場案内図



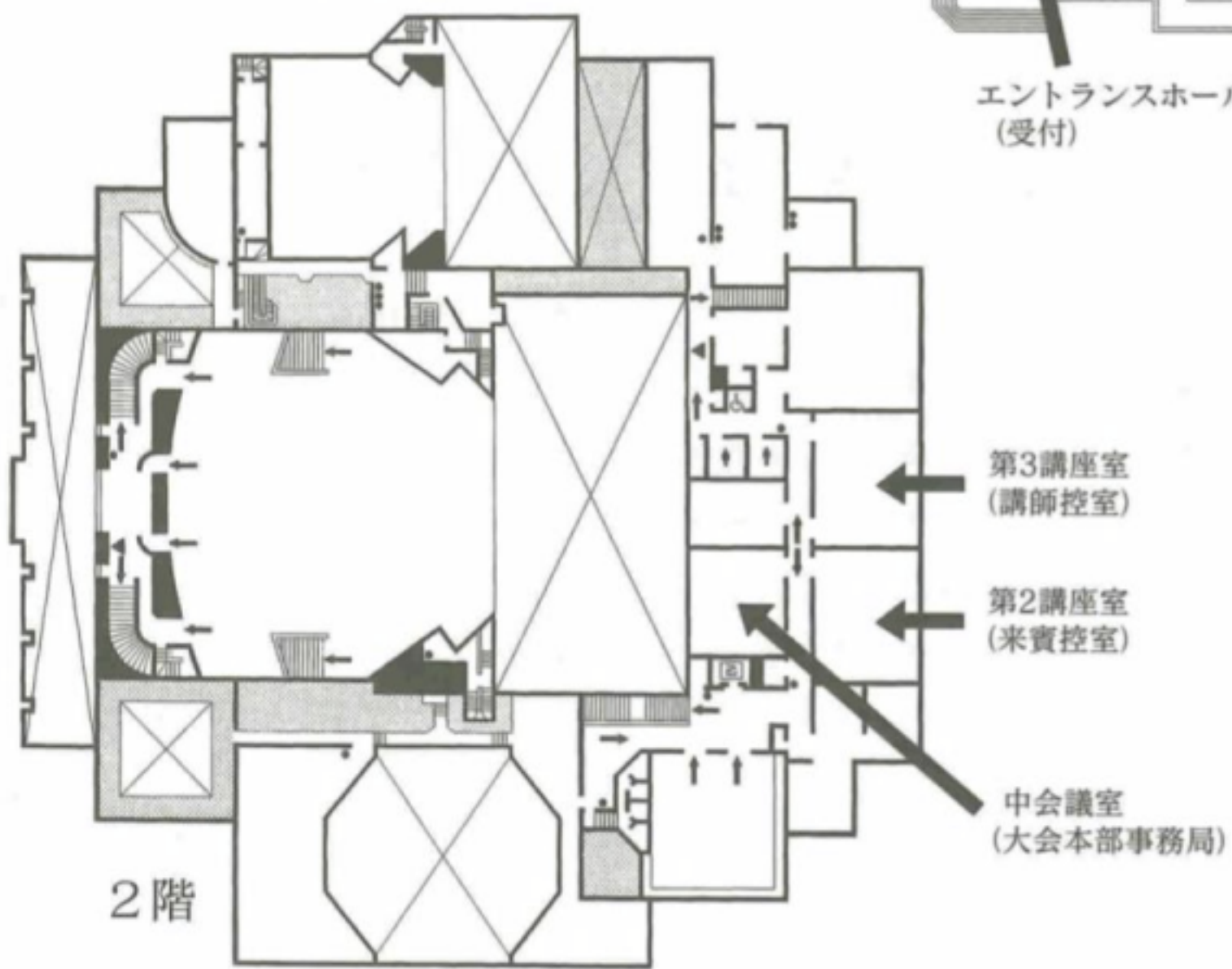
根室市総合文化会館会場案内図

- 体験学習 → 多目的ホール
- 講演・閉会式 → 小ホール
- 受付 → エントランスホール2
- 教材業者展示会場 → エントランスホール1
- 大会本部事務局 → 中会議室
- 来賓控室 → 第2講座室
- 講師控室 → 第3講座室



エントランスホール1
(教材業者展示会場)

エントランスホール2
(受付)



第3講座室
(講師控室)

第2講座室
(来賓控室)

中会議室
(大会本部事務局)

2階

開 会 式 次 第

司会 根室大会実行副委員長 高木英機

1. 開 会 の 言 葉

2. 挨 拶

北海道造形教育連盟委員長 吉 田 倭 雄

根室大会実行委員長 鍋 谷 尊 之

根室大会会場校長 小 林 哲 夫

3. 祝 辞

北海道教育庁根室教育局長 渡 部 英 昭

根 室 市 長 大 矢 快 治

4. 来 賓 紹 介

根室大会副実行委員長 高 木 英 機

5. 研 究 概 要 説 明

北海道造形教育連盟研究部長 菅 原 清 貴

根室大会研究部長 大 井 誠 一 郎

6. 閉 会 の 言 葉

閉 会 式 次 第

司会 根室大会実行副委員長 高木英機

1. 開 会 の 言 葉

2. 挨 拶

北海道造形連盟委員長 吉 田 倭 雄

3. 連 盟 旗 引 継 ぎ

根室市——留萌市

4. 次 期 開 催 地 代 表 挨 拶

留萌地方美術教育研究会 織 田 達 史

5. 閉 会 の 言 葉

根室大会事務局長 山 口 長 伸

記念講演

演 題 根 室 の 植 物

講 師 あわ の たけ お
栗 野 武 夫 氏



略 歴 昭和4年 山形県生まれ
昭和6年 北海道に移住
昭和21年 別海村立中西別小学校に奉職
広野小・当幌小・落石小・西春別小
野付小・上春別小・豊原小を経て
平成2年 上風連小学校校長退職
平成6年 夫婦で「根室管内の植物」を出版

記念講演次第

司会 根室大会実行副委員長 高 木 英 機

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 開 会 の 言 葉 | |
| 2. 講 師 紹 介 | 実行委員長 鍋 谷 尊 之 |
| 3. 講 演 | |
| 4. 謝 辞 | 実行委員長 鍋 谷 尊 之 |
| 5. 閉 会 の 言 葉 | |

根室の地で造形教育の根っこを探ろう

北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方

— 研究副主題 —

一人一人が造形的表現活動の喜びを実感するために

北海道造形教育連盟 本部事務局研究部 研究部長 菅原清貴

上の世代が日本をリードして経済的に復興したけれど、今、下の世代は飽和した荒野に立ち尽くしています。野性さえ喪失した危機的な状況。しかし、自由や豊かさという幻影にだまされず、本質にある存在というテーマに向かいはじめている。

(芥川賞作家 辻 仁成)

どの時代にも、どこの国にも世代間のギャップはあろう。しかし、今のわが国の抱えている様々な難問の中で、この隔たりは実に大きくなっているのではないか。いじめ・不登校にはじまった教育問題は、ただ教育だけの問題ではなく、社会的な閉塞常態（ふさがり交流のつかない状態）が影を落としているように感じる。この状況を指をくわえ他人ごととして見過ごしているのであれば、未来に繋がる鍵を見失うことになる。

子供達や10代の若者は学校生活の中で最も恐れているのは、仲間から「ハブ」されることだという。(ハブ=仲間外れ)つまり、ハブされるのが嫌だからいじめなどの問題があったときちゅうちょしてしまう。当然心の中では、何とかしなければいけない、見逃してはいけないという思いがあると思うが、それをいったとき「あいつがちくった(密告した)」と仲間外れにされています。自分は本当はこういう考えでいこうとしたいが、馬鹿にされるだろうとか、あいつはヘンだと思われる…という気持ちが先立ち周囲を意識し過ぎて言いたいことも言えなくなってしまう。しかし、こ

れを裏返せば、仲間と共に生きようとか、協調や共生しようということにもつながってくるのではないか。子供達は本当はそういう気持ちを持っているのだと思います。ですから、現代の子供達には、『生きる力』がないと言うふうには、簡単にはつなげられないと思います。

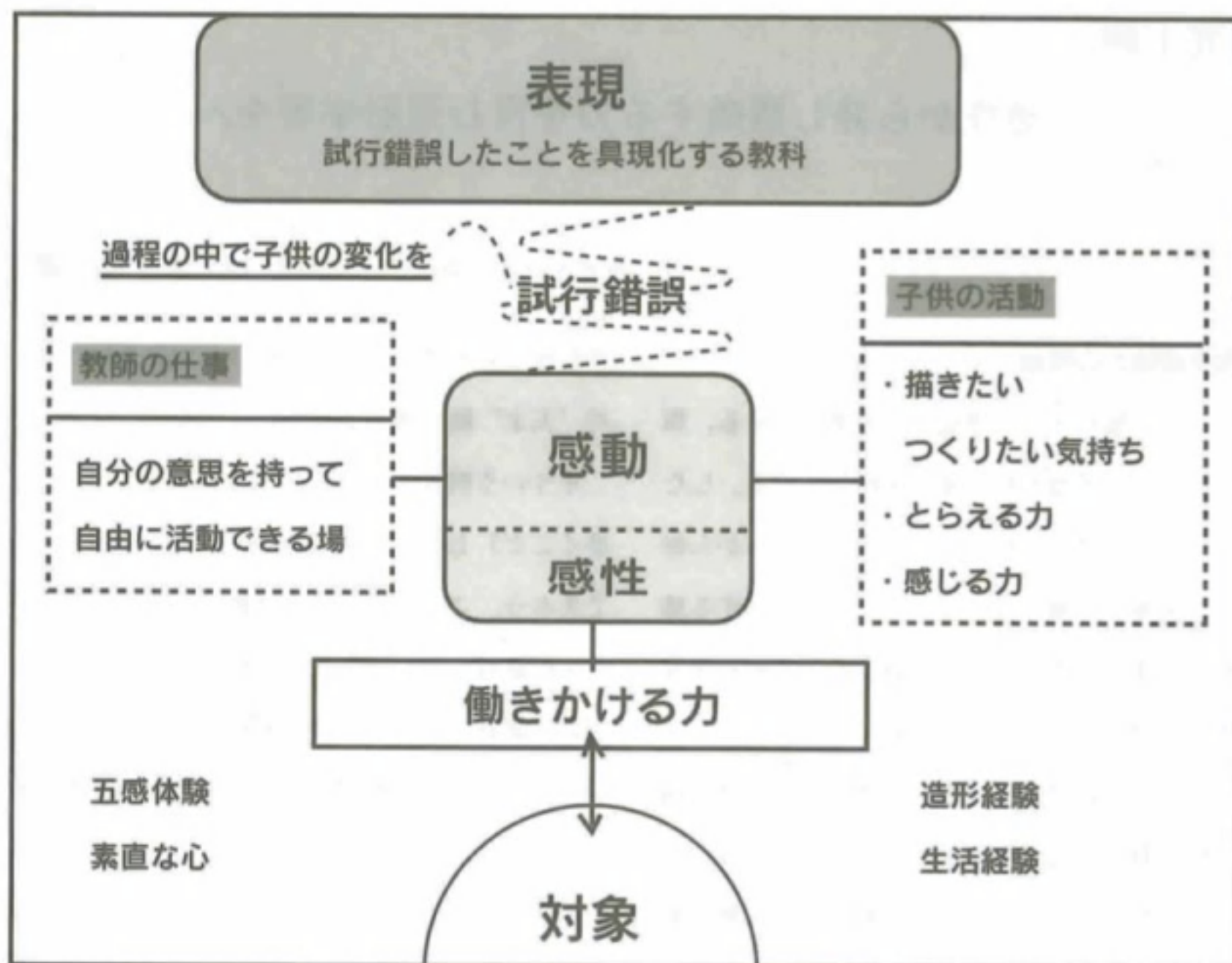
(お茶の水大附属中教諭 春日 明夫)

自らの存在というテーマに向かいはじめている。と分析する流行作家。そして、生きる力を本来持っているという性善説にあえて立とうとする春日氏。ここから、未来につながる鍵が見えてこないだろうか。

私たち研究部では、根室大会をスタートとして社会全般の分析(我が国の現状把握…政治・経済・文化)、日本の近未来展望、世界の中の日本の役割、教育展望、造形教育の価値などの討議をネットワーク会議の席で行いたいと考えている。この「根っこ論議」を土台として2000年を目途に各支部の知恵を集め新たな研究主題を設定することを提案したい。

現在、学校教育は大きな変革期を迎えている。昨年7月に第15期中央教育審議会の第一次答申がだされ、それを受けて教育課程審議会が発足した。教育課程審議会は、これからの社会の変化を見通し、中央教育審議会の答申の趣旨を受け、完全学校週五日制のもとで、各学校が充実した教育活動を展開し、幼児・児童・生徒の一人一人に「生きる力」を身に付ける教育内容の在り方について審議が進められている。

美術教育では表現(造形)、図画工作科、美術科の各校種の段階において「生きる力」をどのよ



うにとらえ、指導目標や指導内容をどのように見直していくかが、これからの緊急の課題となってきた。

子供は、本来感じる力・とらえる力・表現する力を合わせ持っている。しかし、いつでもそれらの力が、出るわけではない。自分の意思をもって自由に活動できる状況になって、はじめて、これらの力が、引き出される。

子供の思いや願いを大切に、その場をいかにタイムリーに提供し、支援や指導をしてあげられるのが大切である。

対象に対して働きかけ、そこから新たな感動を覚える。その豊かな感性を、教師も子供も魅力ある教材の中から手にしたいものである。表現する試行錯誤の中で子供が成長していく姿を見とれる教科が造形教育である。それは、答えが子供の数だけある唯一の教科だからこそなのである。造形教育の素晴らしさに、深く豊かに自信を持って根室からスタートしたい。

〈北海道造形教育連盟の研究を深める4つの具体的課題〉

- ① 不断に追求を続ける精力的な授業改革の取り組み。(子供の思い願いを大切に)
- ② 造形教育ネットワークの一層の飛躍(インターネット活用等で日常的結び付きの追求)
- ③ 幼稚園・保育園から高等学校までの校種の壁を越えた人的交流(授業研究を通して)
- ④ 北海道から発信する、最先端の創造的な題材開発(「根っこ論議」から授業創造へ)

前段でも触れたが、各支部の英知を集約し研究課題を設定していくにあたり、ただの言葉集めにならないよう、絶えず授業研究と結びつけて追求したい。また、今年度より教育美術展の審査を全支部の協力で行うこととした。この2つの取り組みにより一層強く深く全道の絆が形成されるに違いない。この新たな土台形成の出発が、「根室」である。

研究主題

感性から発し躍動する力を育む造形学習を！

根室大会実行委員会研究部長 大井 誠一郎

研究主題設定の理由

いわゆる感性とは、感受性とも書き表せる。刺激に反応する感覚器官の能力を指している。したがって、子どもが外界の“あらゆるもの”から何らかの感動的刺激を受けることにより反応する感覚器官の働きに期待が寄せられることで造形学習がある程度成立していたと思われる。

しかし、これでは主体的なメカニズムとは程遠く、何か物足りない感じが全くしないでもない。かつて、無気力・無反応・無感動など××無主義時代到来と言われたが、まさに《ただなんとなく生きている人間》を象徴化したような的を射た言い方なのであろう。

北海道の大自然は素晴らしいと言われて久しい。たまたま、本州方面からやって来た旅行者などから、広い大地に感動する場面があちこちで頼もしく聞こえてくる。

とりわけ、この根室地方も大自然の宝庫である。そんな自然環境の中で育っている子どもたちをして、根室の大自然に対して感動させること自体は容易なことではないか。《感性は、磨かれてこそ本領を発揮するもの》とも言われる所以である。

感性を磨くとは日ごろから具体的に一体どのような教育活動を指しているのでしょうか。

子どもによっては、放っておいてもおのずから

磨かれている者がいる。それは、美的才能に富んだ“天才”級の場合であろう。

そういう例外的なことを除いてみると、《感性を磨くこと》とは即ち《素直な心になりきること》であろう。ここに、「造形活動（学習）を通しての人間教育」という大きな目標があるのであろう。この《素直な気持ち》が《躍動する力》へのキーワードであり、造形学習への基本の中の基本であると押えるのである。

「点」にすぎないところの《素直な気持ち》を持続させることでそれが「線」になる。それをキープした形で《躍動する力》への指導・支援がどのようにかかわってくるかによって、「面」や「立体」へと発展できるかも知れない。そうすることによって、大自然そのものである、素材の宝庫としての根室の風土がはじめて生かされてくるのではないだろうか。



主題について

《根室大会・キャッチフレーズ》

【今こそ郷土根室を、豊かな感性で掘り起こそう！】

造形活動とは、事物・現象に接し、触れて、感じ取り、気持ちや感情に移入して、技を持って《新たな形》をつくることである。

《素直な気持ち》を造形活動を通して一段と《研ぎ澄まされた心》に持っていくことにより、おのずから《躍動する力》が沸き上がってくるメカニズムを体得させることが、この教科の指導ポイントとしておさえない。

- ① その行為（造形活動）の連続によって心が高まる。
- ② その心が感性を高める
- ③ その心が技を高める。
- ④ その技がさらに心を高めていく。

- ・ そういう《造形教育活動》本来の営みをより具体的な形で、より効果的に教育場面の中に定着させること。
- ・ 子どもに内在する力を“よさ”として引き出し、伸ばすこと。
- ・ 新しい変化のある時代に生きる能力を持った人間を育てること。

これらのことから研究主題を、

「感性から発し 躍動する力を育む 造形学習！」

とし、人間形成の役割を担う教科としての存在価値を、内外に確かめようとした。

豊かな 感性 とは何か？

ここに、子どもにとって、感性の豊かさの育ちが充分なる条件として浮上してこよう。

日頃から図工科に限らず、他教科において勿論のこと、全教育活動において《感性を磨きあげる》こと自体、異論はなかろう。

①接して、触れて、感じ取ること

《事例として》

- ・流木を素材にして【ある人物表現】を共同制作で試みた。僻地小規模なので、全校縦割りグループで取り組み、【モチーフ】を特定せずに造形活動をすすめた結果、結構面白いものが出来上がったのだった。そこで、作品鑑賞として何人かの子どもに人物像のイメージを発表させたところ、ガリバーとか幸福の王子とかあった中で、軽度の知的障害をもつ女兒が「村山首相（当時）に似ているよ。」と発言した。普段、テレビのニュースなどを見ていないとなかなかこうは行かないのではないか。

《発想の転換として》

- ・根室に限らず、本州の梅雨時は北海道も《濃霧注意報》の連発で決してカラリとした天気は続かない。～だから「写生会」は、初夏時分よりも秋口に限る。～という考え方も成り立つが、この濃霧を逆手にとって根室の風土を“写生”しようとするればどうであろうか。淡いタッチの中にも遠近感をどう工夫させるか。水墨画の朦朧とした中国の一流派を漂わせるような方向に出るであろうか。ただし、その場合《白色》は極力使用しないことでアプローチさせてみるのも一考であろう。要するに、濃霧の表現活動を通して郷土への**再認識を図ることこそが、掘り起こそうとする試み自体そのものなのである。**

豊かな **感性** とは何か？

子どもの体内に“怪物君《躍動感》”を呼び起こそう！そのために常日頃からどのような指導の蓄積（積み重ね）が不可欠なのだろうか。

②気持ちや感情に移入すること

教師が図工の授業中、個別指導として机間巡視をした際に、子どもによっては、製作中の作品を教師の目から避けようとして覆い隠そうとする光景が見られることがある。

そういう場合は、まず、子どもの方に《自信がない》こと。教師への人間関係において、敵意あるいは恐縮、羞恥心、照れ隠し、完成後に周りをアッと言わせようという企ての意図のあらわれ、その他様々な思いが子どもの側で、意外なほどしっかり働いていること。

☆ ☆ ☆

では、《自信をもたせる→のびのびと表現活動ができる》ためには、常日頃からどう指導すればよいのだろうか。

子どもをその気にさせて、感情移入への初歩的訓練を増やしていこう

1. すぐ「作品」づくり≠造形学習

【練習→エスキース《作品部分の基礎演習》→作品】のような指導過程の流れを小学校高学年、中学校・高校段階ではしっかりと踏まえること。おもしろそうだ！やってみたい！のように意欲関心態度を喚起させること。手順を踏んで技法をも高める。

2. 造形学習の時間以外にも有機的に造形活動を考慮すること

【教科】・国語→挿絵づくり、紙芝居づくり、新聞コラム

・生活→造形あそび、飾りものづくり、看板作り、ゲームづくり、素材集め、野外活動

・理科→自然観察、観察スケッチ、図表表現

豊かな **感性** とは何か？

- ・理 科→物体の質感学習、自然現象の偉大さ、地質・地層の歴史の変遷、宇宙の神秘
 - ・社 会→異文化・歴史的造形文化遺産への興味、地球・人類規模に立脚した考え方への関心
 - ・算数(数学)→平面、立体の構造感覚、幾何学的発想、図表・グラフ表現の理解、平面・立体表現への関心、無限大等への興味
 - ・音 楽→リズム感・音程感の体得、音楽的表現による感動体験、音楽的鑑賞による感動体験、作曲（即興表現）によるイメージの構築
 - ・体 育→運動的リズム感の体得、身体表現としての感動体験、身体的躍動感の体得
 - ・家 庭→生活全般から造形的感覚を視点にすえた学習体験(衣・食・住)
- 【道 徳】真、善、美としての道徳的価値観を心の視点から見据えようとする関心・態度、道徳観から発する感動的体験
- 【特 活】ボランティア（対人・対物関係等）活動を通しての感動的体験、諸イベントへの造形作業的体験、集団行動における規律的体験、野外宿泊等による自然体験的学習

☆ ☆ ☆

以上のように、様々な方面からの有機的な関連を受けた形での経験を**造形学習に生かして**いかなければならない。そのことがある程度子どもたちの脳裏に焼きつくように理解されているならば、たいへん素晴らしい幅広い感性が造形学習以前に成立していることになろう。

公開授業



公開授業

校種	内容・分野・分科会	学年	題材名	授業者
小学校	つくりたいものをつくる 〈第1分科会〉	3年	霧のむこうに	船山美樹 (根室市立花咲小学校)
	共同版面に表す 〈第2分科会〉	5・6年 〈複式〉	自分の思いを 彫りに込めて・・・	柏尾和市 (中標津町立若竹小学校)
	絵や立体に表す 〈第3分科会〉	5年	CMをつくろう ービデオを使ってー	中嶋能亜 (根室市立花咲小学校)
	立体に表す 〈第4分科会〉	5・6年 〈複式〉	温根沼の砂や貝殻等も 使って土器を作ろう	煤賀克文 (根室市立幌茂尻小学校)
	立体に表す 〈第5分科会〉	1年	粘土あそび	山口長伸 (根室市立落石小学校)
中学校	自然との対話 〈第6分科会〉	1年	石に描く 根室の自然を デザインしよう	長谷川 恵美子 (根室市立柏陵中学校)
	素材から発想して 〈第7分科会〉	3年	鮭の皮を使って	館山唯郎 (中標津町立広陵中学校)
高校	デザイン・表現 イラストレーション 〈第8分科会〉	2年	根室のガイドマップ	加々谷 由理子 (北海道根室高等学校)

●● 題材名 「霧のむこうに」

小学校3年

単元名 つくりたいものをつくる

<第1分科会>



根室市立花咲小学校

授業者 船山美樹

1. 題材観

道東では、霧がよく発生する。霧多布、摩周湖などはその典型だが、この根室もかなり霧の多く発生するところである。

「霧」と言えば、暗い印象もあるが、霧によって演出される幻想的な風景を思い起こしてほしい。

本時は、「乳白色の霧に包まれた風景（淡くかすむ様子、遠くのものほど見えなくなる様子）」、「霧の中の光の淡くぼやけながら広がる美しさ」といった情景からイメージを広げ、そこから発想して造形活動をすすめていく。

トレーシングペーパーは、そのような霧の特性に近い要素をもっていると考え、今回用いることにした。

本題材のねらいは、日常の中の事象に目をむけ、そのイメージから発想を深めることである。

また、紙（トレーシングペーパー）で霧を表そうとする活動から、工夫しだいで、ありふれた身の回りの素材や材料からさまざまな表現や造形活動が発展し得ることを実感し、体験できるきっかけになるのではないかと考える。

6. 本時の展開

児童の活動	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・「この紙、なんだろう」トレーシングペーパーとの出会い ・本時の活動内容を知り、興味をもつ ・発想をもとに構想を練り、つくる ・本時の学習を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場面の工夫（トレーシングペーパーの面白さに目を向けるように） ・霧のむこうに隠したものは… ・発想、製作の援助 ・本時の活動の振り返り、次時の活動を知らせる

2. 児童の実態

根室に生まれ育った子どもたちは、霧のたちこめる風景に対し当たり前の風景としてとらえており、その幻想的な美しさを意識して見たことは無いようである。

図工好きの子が多く、形や色などから発想して作品を作り上げるといった、今回のような題材に対しても抵抗無く取り組める子がほとんどである。

3. 題材の目標

《関心・意欲・態度》霧の世界をイメージして自分の作りたいものをつくろうとする

《発想や構想の能力》イメージから自分がつくりたいものを考えることができる

《創造的な技能》自分がつくりたいものになるよう、材料を考えたり工夫したりできる

《鑑賞の能力》自分や友達の工夫やアイデアで楽しむ。

4. 学習の全体計画

	主な活動	時間
第1次(感受)	・霧の様子を思い起こす	1時間
第2次(発想)	・霧のイメージを広げる (構想) ・発想をもとに構想を練る (表現) ・発想や構想をもとにつくりたいものをつくる	2時間
第3次(鑑賞)	・自他の作品を見て認め合う (発展) ・材料の別の効果を知る	1時間

5. 本時の目標 (2/4時間)

《関心・意欲・態度》トレーシングペーパーの特徴を生かし、つくろうとする

《発想や構想の能力》自分がつくりたいものをイメージすることができる

《創造的な技能》自分がつくりたいものになるよう、材料を考えたり工夫したりできる

《鑑賞の能力》友達と発想を認めあうことができる

● 題材名 「自分の思いを彫りに込めて…」

小学校5・6年

単元名 共同版画に表す

<第2分科会>

中標津町立若竹小学校

授業者 柏尾和 市



1. 題材観

造形教育の中で、共同制作にはカレンダーや連作画・壁画等があるが、最も取り組まれているものに「版画」がある。

本校では毎年版画文集(今年度は26号)を制作している。本校の版画の伝統を継承していく上で、子どもたちに次の願いを託している。

◇彫りや刷りで感動を表現する力

◇集団作業を通して助け合う力

◇作品を鑑賞し認め合う力

日常的に「心の耕し」として取り組んでいるのは、自分の思いを文章や絵で表す絵日記である。題材に入る前に、地域の酪農家に数回通い、牛舎の仕事や牛の世話などを体験した。こうした体験活動の中で得た子どもたちの思いを大切に、共同版画に取り組んだ。

本時には、彫りを仕上げ、本刷りした作品を鑑賞できるところまで進めたいと考える。

昨年は「校内卓球大会」を題名にした作品を仕上げ遠近感や動作の工夫をしたが、今年はもう一步踏み込んで迫力ある画面構成で仕上げたいと考える。

6. 本時の展開

児 童 の 活 動	教 師 の 支 援 や 評 価
①今までの学習を振り返り本時の活動の見通しを持つ。 ②試し刷りした作品を見て、どうしたらもっとよくなるかの意見を出し合う。 ③安全に気をつけながら彫る作業を行う。 ④協力し合いながら刷る作業を行う。 ⑤できた作品を鑑賞する。片付け。	・今日の学習について確認させる。 ・一人ひとりの発言を大切にしながら認めていく。 ・安全に道具を扱っているか見回る。 ・インクが満遍なくついているか指導する。 ・本時の学習を振り返らせ、次時への目標を持たせる。

2. 児童の実態

今年度は、5年男子1名・女子3名、6年男子3名、計7名(地域3名・特認4名)でスタートした。今回の共同版画に取り組むにあたって、今まで酪農家へ数回にわたって通い、絵日記を描いたり写生をしていることからスムーズにこの題材に入ることができ、その結果地域の特性を生かした作品に取り組むことができた。

今までの経過を振り返ると、構想・下絵の段階では比較的練る時間を要したが、彫りに入ると計画的に作業を進め、子どもたち誰もが分担箇所を最後まで責任を持って取り組んでいた。

3. 題材の目標

- ◎子どもたちの一人ひとりが郷土への思いを込めて、工夫して彫りを進める。
- ◎みんなで協力して共同版画に表すことができる。

4. 学習の全体計画(10時間)

①絵日記、写真をもとに構想・下絵	2時間
②カーボン紙で板に写す・墨塗り	1時間
③彫り・試し刷り	5時間
④彫り・本刷り〔本時〕	1時間
⑤評価・鑑賞	1時間

5. 本時の目標(9/10時間)

- ◎今までの制作過程を振り返りながら、本時の活動の見通しを持つ。
- ◎安全に気をつけながら、協力して作業を行う。

● 題材名『CMをつくろう』

小学校5年
 単元名 絵や立体に表す
 <第3分科会>



根室市立花咲小学校
 授業者 中嶋能亜

1. 題材観

近年、家庭用ビデオカメラは小型・軽量、操作も簡単で手軽に扱えるようになり、学校行事などでビデオカメラを構える大人の姿を見かけることが多くなった。

ところが、子どもが自由に撮影する機会は少ない。家庭用ビデオカメラの普及率が上がっても子どもは簡単にはさわらせてもらえない場合が多いのである。

TV番組の合間に流れるCMは普段、何気なく見ているものの、意外と印象に残っている場合が多い。子どもたちもCMで流れている文句を話題にしたり、曲のフレーズを口ずさんだり、鍵盤ハーモニカやリコーダーで演奏したりすることがある。

本題材では、ビデオカメラの基本的な操作方法に慣れ、操作する楽しさを味わいながら、ビデオカメラを絵筆のように使い、自分たちなりの視点から根室という地域を紹介するCMづくりを進める。また、CMをつくる活動を通して、自分たちの住んでいる環境に関心を持つことで、地域の魅力を再発見してほしいと考える。

6. 本時の展開

児童の活動	教師の支援・評価
<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を知る ○鑑賞する ○鑑賞カードに記入する ○鑑賞カードを模造紙に貼り、交流する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビデオを使った表現の面白さに気づく ○作品を見て思ったこと、感じたことを自由にかけるような雰囲気をつくる。

2. 児童の実態

今年度より担任している学級である。グループでの活動を好み、社会科では、根室の基幹産業である水産業について図書館などへ資料集めに行ったり、お寿司屋さんへ取材に行くなどの活動をしてきた。漁業に関係した仕事をしている家庭が多いこともあり、地域に対する関心は高いといえる。

図工科ではこれまで、「布や木を生かして」「のぞいてみると」「これがわたし、これもわたし」などの題材に取り組むなかで、それぞれの表現の工夫や違いの面白さを感じ取ってきている。

3. 題材の目標

- ビデオカメラの基本的な操作に慣れ、操作する楽しさを味わう。
- 自分たちの住んでいる地域の魅力が伝わるように表現の仕方を工夫する。

4. 学習の全体計画 (6/6時間)

時間	内 容
1	ビデオカメラの基本的な操作方法に慣れる。
2	操作する楽しさを味わいながら、どんな表現ができるか話し合い、思いを深める。
3	アイディアスケッチをかく。
4	制作する。
5	
6	鑑賞する・・・ (本時)

5. 本時の目標 (6/6時間)

- さまざまな表現の工夫を楽しみ、自他の作品のよさを認める。

●● 題材名 温根沼の砂や貝殻等も使って
土器を作ろう

小学校5・6年（複式）

単元名 立体に表す

<第4分科会>

根室市立幌茂尻小学校

授業者 煤 賀 克 文



1. 題材観

この地は、太古の昔より先住民族が居住し学校の近くの畑からは、温根沼式土器の破片が発見されている。校区には多くの遺跡が残されている。また、遠浅に広がる前浜では、父母がアサリ・ホッキ漁を生業にして根室の名産物となっている。

このように児童の身の周りにある歴史的な遺物や貝殻、砂などの素材を使って、かつて住んでいた太古の人々が使っていたであろう温根沼式土器を当時と同じく野焼きの方法で制作したい。

さらに温根沼式土器の形態や紋様に注目させ、そこから自分なりの土器を創意工夫するよう発展させる。

2. 児童の実態

本校の児童は、明るく素直であり一人一人の

個性が明確である。

低学年では、油粘土を積極的に楽しむが長じるに及んで次第に粘土に興味を示さない傾向にある。

しかし、今回は、自分の地域から出土した温根沼式土器やアサリ貝等身近な材料を使い、野焼き等変化に富んだ学習過程のため、興味や意欲をもって学習に取り組んでいる。

3. 題材の目標

- (1) 粘土の特性を知り、先人の温根沼式土器の特徴を生かして制作する。
- (2) 粘土に砂や貝殻を混ぜたり、土器の形態や紋様を工夫して自分だけの土器をつくる。
- (3) 野焼きの方法を知り、自分たちで焼き上げる。

4. 学習の全体計画

- (1) この地域の太古の歴史を知り、温根沼式土器の特徴を知る。
- (2) 粘土の特性を知り、作りたい土器のアイデアスケッチをする。
- (3) 粘土に砂や貝殻を混ぜるなど工夫して成型する。
- (4) 野焼きの方法で焼き上げる。

5. 本時の目標

自分なりに工夫して土器を楽しく制作する。

6. 本時の展開

児童の活動	教師の支援・評価
温根沼式土器や資料を参考に自分の作りたい土器の構想を練る。	土器の実物や資料の準備など、児童の興味・関心・意欲をもたせる。
温根沼の砂や貝殻を工夫して自分の土器をつくろう	
粘土の特性を知り、砂や貝殻などを混ぜるなど工夫して自分の土器をつくる。	焼き上がりを予想して創意工夫を凝らして自分の土器を制作させる。
野焼きの方法を知り、自分の作品を焼く。	火を調節し、野焼きの実際を体得させる。

●● 題材名 表現「粘土あそび」

小学校1年
 単元名 立体に表す
 <第5分科会>



根室市立落石小学校
 授業者 山口長伸

さらに、表現活動での材料をもとにした造形遊びでは、

ア 砂、土、粘土などの材料に親しみ、それらをもとに体全体を使う造形遊びをすること。

そして、表したいことを立体にすることでは、

イ 粘土に親しみながら、手を働かせて思いのままに立体に表すこと。

と表記されている。つまり、体全体を使い、中でも脳の発達に直結する手の動きを中心とした造形遊びを通して、思いのままに立体を表現することが、この題材のねらいになる。この授業を通して、児童の立体表現の意気込みを大きくふくらませてやりたい。

1. 題材観

図画工作科の目標は、次の通りである。

「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるとともに表現の喜びを味わわせ、豊かな情操を養う」

具体的には、一人一人の児童が、自分で課題を見つけ、自ら考え、発見し、自分で作りあげたことを喜び、人間の意欲や知恵や努力などの素晴らしさを、図画工作科の中で知ることである。さらに、図画工作科の学習で私達の生活が明るく生き生きしてくることを知ることである。

また、第1・2学年の目標は、次のようになっている。

- (1) 材料をもとにした造形活動の楽しさを味わい、材料から豊かな発想をして、進んで造形活動ができるようにする。
- (2) 表したいこと、つくりたいものを自分の表現製作の方法でつくりだす喜びを味わうようにする。
- (3) かいたり、つくったりしたものを見ることに興味をもち、その楽しさを味わうようにする。

端的に言えば、図画工作科の学習を通して進んで造形活動ができ、つくりだす喜びや楽しさを味わうことができればよいのである。

6. 本時の展開

児童の活動	★→生きる力 ●→技能・関心・意欲 ♥→道徳的な実践力	教師の支援・評価	○→支援の言葉 ◎→指導上の留意点 □→評価項目〔 〕
1 粘土を机の上に置き、すぐ制作に取りかかれるようにしておく。 ●腕まくり、濡れタオル、適当な粘土の量 ♥ 友達の分も考慮した粘土の配分		◎ 粘土は、耳たぶ程度の柔らかさを持ち、指にしっとりとなじむものを準備する。 ◎ 前時の制作を思い出させ、制作意欲を喚起する。	
2 作品に対するイメージを膨らませる。 ★無から有への発想を大切にす。		◎ 目標を児童が自覚できるように説明する。 □ [A(1)ア] 児童の発想を大切にし、学習への興味関心を持たせる。	
3 説明の後、制作に取りかかる。 落ち着きのない児童 作業が遅れがちな児童		◎ 机間巡視で、全ての児童に声をかける。 ○ ゆっくり作ろうね。	

●● 題材名 石に描く

—根室の自然をデザインしよう

中学校 1年
 单元名 自然との対話
 <第6分科会>

根室市立柏陵中学校
 授業者 長谷川恵美子



1. 題材観

私たちは、たくさんの物や情報にかこまれ、豊かで便利な現代社会に生きているが、反面、自然破壊や環境問題も地球規模で起きている。そのような中であらためて長い歴史の中で人間の生活を支えて来た大自然の恵みや身近な自然を見つめなおし、そこに豊かさや潤いを感じることは大変重要ではないだろうか。

そこで、ものをつくる、描くという原点にたちかえり自然のままの形や材質を生かして創ることを体験させたいという思いでこの題材を設定した。

ここでは、根室の自然をテーマにふだん何げなく見過ごしている石を動物（昆虫、鳥、魚も含めて）に見立て着色し、額の中にほかの自然物も加えてテーマを表現させたい。長い地球の歴史の中で生まれた石の存在に思いを馳せ、その形や材質のおもしろさ、美しさを発見し、そこに絵を描くという作業は足元に転がっていた石ころに生命を吹き込む喜びを味わわせ、改めて自然を見つめなおす機会になると考えている。

6. 本時の展開

生徒の活動	教師の支援
前時の作品を見ながら、本時の目標を知る。 留意事項、用具の使用方法を確認する。	楽しく、意欲的に取り組める雰囲気作りを心掛ける。
各グループに分かれて、配置、構成の作業に入る。 ・石で作った動物を配置する。 ・よりテーマに近づくため、自然物をどう構成するか、話し合いながら作業を進める。	大体のイメージ作りは前時に行っておく 動けない生徒へのアドバイスをする。
できあがった作品を互いに鑑賞し、感想が言える。	各グループの作業進捗がかたよらないようにアドバイスする。
自己評価カードに記入する。	成就感を味わえるよう助言する。

2. 生徒の実態

1年生らしく、明るく素直である。
 絵を描くことに苦手意識をもっている生徒が多く、全体的にしていねいにこつこつ作業するのは得意ではない。しかし、4月当初から授業には反応もよく前向きである。グループ学習の形態を取るのには、今回が初めてであるが学級の実態から、話し合いや、作業の集中度や人間関係の面で多少不安もある。

3. 題材の目標

- ・古なる石の歴史に思いをはせ、何げなく見過ごしてきた石の美しさを認識出来る。
- ・石の材質や形の特徴を生かし、想像力を働かせ、描くものを発想する楽しさを感じる。
- ・単純化や省略しながら美しく動物をデザインし、ポスターカラーで着色出来る。
- ・郷土根室の自然を見つめ直し、デザイン化できる。

4. 指導計画

1. 関心、意欲の喚起 石の歴史について考える。サブテーマと作品のイメージ創り。
2. 石の採集 イメージにあったものを海岸で採集する。
3. 石に描く サブテーマに沿った動物をデザインし配色を決め着色する。
4. 構成する 石に描いた動物を持ち寄りグループごとに他の自然物も加えて配置構成しサブテーマのイメージを表現する。〔本時〕

5. 本時の目標

- ・自然物のあたたかさや、おもしろさを感じながら、楽しく配置や構成をすることができる。
- ・材料のよさを生かせるような、独創的な発想が出来る。

●● 題材名「鮭の皮を使って」
～素材から発想して～

中学校3年
デザイン、工芸
(選択美術)
<第7分科会>

中標津町立広陵中学校
授業者 舘山唯郎



1. 題材観

2つの視点でこの題材をとらえている。

1つは、郷土根室への見直しである。便利な世の中になり必要な物はほとんど手に入り、必要な情報や知識も様々な媒体から入ってくる。そういう意味において日常生活の中で地方に住む不便さはほとんど感じられない。平均化された社会に住む中で地元の題材へ目を向けることは根室を支える基幹産業にも目を向けることになる。また、過去の生活において鮭の皮がくつやかっぱなどに使われたり、現在においても服や財布等の工芸品として実際に利用されている。鮭の皮の実用性を知るきっかけにもなる。

2つ目は、素材から発想し生徒自身がそれぞれの学習計画を立てて学習を進めることである。

五感を働かせ鮭と向かい合いそこから感じ取り、着想し、発想し、構想を練っていく、その過程に生徒の自己実現を期待しながら題材を設定した。

とにかく我慢強さが無い、短絡的と言われる今の生徒であるが、見通しを持ち自らの計画を立てて進めていく学習は困難さも伴うが、自分で物事を決定していくことの価値や楽しさを感じ取って貰って貰えればと思う。

6. 本時の展開

生徒の活動	教師の支援・評価
①学習計画表をもとに本時の自分の学習内容の確認をする。 ②自分が立てた計画に従い、制作を進める。 ③本時の学習を振り返り、本時の到達度を確認し、次時の計画の見通しを立てる。 ④後片付けをする。	・本時の作業内容について各自が確認し、速やかに移行できるようにする。 ・個々の実態に応じ、机間巡視をしながら指導する。 ・個々の良いところを認め、意欲を持たせる。 ・次時への見通しを持てるよう個々に援助していく。

最終的に多様な作品が見られるだろうが生徒の制作意図や意志を尊重し成就感の持てるものにしたい。

2. 生徒の実態

3学年は140名程度であるが、本校では前期に技芸教科を中心に7つの選択教科のコースを設けている。選択教科ゆえ全員希望通りに配属されるべきものだが様々な要因からそうならなかった。第1希望で3割、第2希望で5割、第3希望で2割が受講している。

全体的にまじめな態度で授業に参加するが、比較的男子の中に発想の深まりのない生徒が多い。

3. 題材の目標

素材の特徴を生かし、自分の制作意図に応じ素材を加工し、計画的に進めることができる。

4. 学習の全体計画 (16時間)

- ①オリエンテーション (1時間)
- ②鮭を知る、素材の特徴をつかむ (1時間)
- ③素材の特徴(長)を生かし制作したいものを考える (1時間)
- ④素材づくり、計画づくり (1時間)
- ⑤計画づくり (1時間)
- ⑥素材の加工 (2時間)
- ⑦表現活動 (本時4/8、8時間)
- ⑦鑑賞、評価 (1時間)

5. 本時の目標

- (1) 自分の学習計画に沿って、見通しを持ち意欲的に取り組むことができる。

●● 題材名 「根室のガイドマップ」 ●●

高校2年

単元名 デザイン、表現

イラストレーション

<第8分科会>

北海道根室高等学校

授業者 加々谷由理子



1. 題材観

すばらしい大自然の中に根室は位置している。ここで育った人々は人情に厚く、街も比較的住みやすい。しかし、この街を観光や仕事で訪れる人はいても、好んで住もうとする人は少ないようだ。高校の生徒達の多くも卒業後はもっと大きな都市に出たいと思っており、郷土の歴史や風土に対する関心も薄い。また、書店で販売されているガイドマップでも、根室は他の地域とまとめられて1ページか1/2ページほどの紙面に載っているだけである。他の地域の人以上に地元の人に根室のよさを実感してもらいたい。

イラストレーションを描くことによって、街や自然を新たに見直し、ここから離れても郷土に誇りをもって生きて行ける人になってほしいと思う。今回、制作するガイドマップは身近な地域から根室全域までの中から、自らテーマを設定し、興味・関心を高めたい。

6. 本時の展開

生徒の活動	教師の支援・評価
1. 導入（題材の理解） (1) 根室からテーマを選び、紹介するガイドマップを制作することを理解する。 (2) 根室について考察する。 (3) 作例を参考に、構成のヒントを得る。 (4) テーマを探し、それについてのアイデアを出す。	(1) 本時の学習内容について伝える。 (2) 根室について問いかける。 (3) 作例を提示し、わかりやすく伝える工夫について考えさせる。 ◇評価 ・意欲的・積極的に取り組むことができたか。 ・自分の意見・感想を述べることができたか。

主体的に取り組むことによって、資料を集め工夫をし、他者にわかりやすく伝える力を育てたい。

2. 生徒の実態

2学年の芸術は、音・美・書に分かれて4クラス3展開で授業が行われている。書道への希望が集中したため、このクラスは小人数となっている。生徒達が根室についてどのくらい理解しているのかもこの制作を通して把握したい。普段、制作作業が好きで、取り組みも積極的であるが、主体的にテーマを決定していく事は、比較的不得手である。

3. 題材の目標

- ①根室について考察する。
- ②作例が楽しく、わかりやすく伝える工夫がされていることを理解する。
- ③テーマを決定し、ねらいにあった表現の工夫をする。

4. 学習の全体計画

- ・導入（1時間）～1時間の導入の後
- 夏季休業期間の宿題とする。

5. 本時の目標

- ①根室について考察し、歴史や風土に触れる。
- ②作例から、構成のヒントや工夫を学びとる。
- ③テーマとなる題材を探し、具体的なアイデアを出す。

知能会計学会大会誌、会友及び理事等諸君の御座るに

提言要旨



第47回全道造形教育研究大会・根室大会分科会構成

分科会	1		2		3		4	
授業 担当	小学校第3学年 「トレッシングペーパーを使って」		小学校第5・6学年複式 「共同版画」		小学校第5学年 「ビデオを使って」		小学校第5・6学年複式 「オンネットー焼き」野焼き (雨天の時は焼き物の成形)	
授業者	船山美樹	花咲小	柏尾和市	若竹小	中嶋能亜	花咲小	煤賀克文	幌茂尻小
提言者	矢口少子 阿部孝彦	西竹小 釧路・浜中町・茶内小	阿部雅美 佐々木忍	美原小 留萌・留萌市・藤山小	石橋一郎	網走・斜里 町以久科小	和田浩司	十勝・幕別 町中里小
司会者	生田和江 成田慎司	釧路市・清明小 ／上川・名寄東中	松本とも子	豊原小 日高	小原緑	豊原小	鈴木秀明	函館・函館 市昭和小
助言者	高木英機 竹内堅治	計根別小・留萌・小平町・鬼鹿小	伊藤孝三 細見浩	若竹小 連盟顧問	桐澤享 藤井正治	連盟顧問 札幌東園小	大井誠一郎 中島欣也	中標津小 釧路・厚岸町・床潭小
記録者	築詰佳緒里	野付小	小出秀朋	啓雲中	山田妃呂美	別海中央小	鈴木悦子	花咲港小

分科会	5		6		7		8	
授業 担当	小学校第1学年 「粘土遊び」		中学校第1学年 「石に描く」		中学校第3学年(選択) 「鮭の皮を使って」		高等学校第2学年 「根室のガイドマップ」	
授業者	山口長伸	落石小	長谷川恵美子	柏陵中	館山唯郎	広陵中	加々谷由理子	根室高
提言者	山口雅子	帯広市 開成小	和嶋弘美 三浦正輝	厚床中 和田中	角田尚美 西村司	広陵中 石狩・江別 第二中	安藤和也 本田勝哉	根室西高 札幌丘珠高
司会者	中川眞一郎 内山博之	檜山乙部栄 浜小／釧路 教大附属小	庄子展弘 佐藤宏茂	中標津中 胆振・室蘭 ・鶴ヶ崎中	大溝雅之 里見貴史	春松中 網走市・網走第三中	久保英樹	柏陵中
助言者	小野寺宏二 竹内洋嗣	薫別小 網走市・網走西小	本川勝敏 佐藤公毅	和田中 胆振・苫小 牧・光洋中	川原和一 山理利春	野付中 旭川市・旭川中	清水克美	連盟顧問
記録者	熱海桂子	上春別小	小林玲子	歯舞中	下西明美	上西春別中	齋藤由紀子	別海中央中

・・ (提言) 小学校中学年絵画指導

子供に表現をささえる力を
～年間を見通した指導に～

<第1分科会>



中標津町立西竹小学校

氏名 矢口 少 子

1. はじめに

「個性を引き出す」とか「創造性を育てる」など図工美術教育の課題として問われることが多い。まったく異存はないのだが現実の子どもを見るとそれ以前の課題を感じる。

まず絵画で言えば、下絵には満足しても彩色段階でつまずき挫折感を味わっている場合が少なくない。また下絵にしても画面構成のまずさから満足できない結果を味わう子どもも多い。まず、用具の扱いが満足にできない場合が少なくない。あと絵の具など画材の扱いも指導されていないことが多い。子どもは個性を発揮するどころか、画用紙を前にちちこまってさえ見える。

「作品」を要求する前に、まずその表現をささえる力をもたせてやるのが大事な仕事ではないかと思う。そのうえで更に「作品」への「思い」や「構想」をもたせる。そうした手順を大切にすることで「創造の芽」をふくらませてやれるのではないかと考えている。

2. 実践の流れ

「作品」は、学期に1つ程度におさえている。その作品をささえる内容を「習作」という形で取り組ませている。「習作」と「習作」の流れにも関連性や継続性を持たせて、力の発展を期待するようにしている。

1学期は主に「水彩用具の扱い」「混色指導」「描画の基礎的技法」を進め、「作品」としては「木と遊ぶわたしたち」を設定した。

2学期以降は、「表現のさまざまな技法」として、「色のりで描く」「こすりだし」や「マーブリング」などを「習作」として扱い「デザイン作品」や「物語の絵」「想像の世界」などにつなげていきたいと考えている。

3. 指導の実際

まず、4月当初は「はだ色作り」で色の概念くずしに取り組んだ。子ども達は「はだ色なら絵の具箱にあるよ。」と言う。それを画用紙に出して一人一人の顔の色と比べて見てもらった。そこでその色ではまにあわないこと、「色作りの必要性」を実感させた。併せて色作りの基本として「薄い色に少しずつ濃い色を加えて行くこと」、「パレットや筆洗いの使い方」など基本的な体験をさせた。

次にこれを生かして、「私の顔」に取り組んだ。中心の鼻から描き進めていくことで「概念的に描く」ことから、「よく見て特徴を表現する」描き方へ転換を図った。着色では「筆づかい」を指導した。2時間よく集中して鏡の自分を観察しながら進めた。

ようやく野山に草の芽などが出来たので「つくし」に取り組んだ。「鼻から描く」の関連で1点から順繰り見比べながら描き進めることなどではかまがよい目安となるし、色作りの面でも「顔」を発展させるうえで「つくし」は適当な題材であった。

その後、校庭の「ナナカマドの小枝」に取り組んだ「つくし」を発展させる要素として直線的な方向だけでなく、葉の付き方に目をやることで方向性に気づかせたかったこと、「緑」も「絵の具箱にはない色」もあること、また「茎」と「葉」の質感の違いを表現させたいと考えたからである。

そして1学期のまとめとして「木と遊ぶわたしたち」へとつなげていった。

詳細や「今後の課題」については紙面が限られているので、別途資料としてまとめ紹介することにしたい。

・・〈提言〉小学校・絵に表す・・

『自分の思いを楽しく
生き生きと表現するために』

〈第1分科会〉



浜中町立茶内小学校

氏名 阿部 孝彦

1. はじめに

図工の時間は好きだけど、絵の具を使って絵を描くのは嫌だ。造形活動は好きな子供達ではあるが、絵の具を使って自分が思うように描けない子供たちにどのように援助して関わっていけば、子供たちに喜びを味わわせることができるのか、その手だてを考えていきたい。

2. 実践の流れ

子供の絵画表現の妨げとなっているもの

・用具の取り扱い

「絵の具を使うのが面倒」

「色を塗ると下手になる」

「間違うとなおせない」

・観察の仕方

「描きおわってみると、描いたものと違う」

・他人と自分との違い

「〇〇君のはうまいのになあ」

今かかわっている四年生ではこれらのことを課題として取り組んでいる。

3. 指導の実際



子供一人一人の、絵画表現に対するコンプレックスを取り除くために、自分の表現に自信を持ち、お互いの良さを認め、自分が表現するための技を発見することができるようにしている。

4. まとめと今後の課題

教師側ではその気はなくても、子供たちにとっては「大きなお世話」になってしまう一言がある。表現に関してはできるだけ子供にまかせて、適切な言葉とタイミングを心がけていきたい。

・・・〈提言〉小学校「2・3年(複式学級)」

どんな動物がいたら楽しいかな

「美原動物ランドをつくろう」

〈第2分科会〉



別海町立美原小学校

氏名 阿部 雅 美

1. はじめに

本校は、児童数42名の小規模校で複式校(1・4年生は単式)である。学校周辺には、牧草地がどこまでも広がり、近くに海や川もあり自然に恵まれた場所である。子供たちはのびのびと育ち、素直で明るく純朴であるが、人間関係が固定され受動的な生活態度で、自ら考え、取り組もうという積極性に欠ける。また、身近にある豊かな自然に目を向け、働きかけて学ぶという面は、まだまだ弱い。

このような実態を踏まえて、地域性や自然環境を生かした活動を取り入れながら、子供たち一人一人が自分らしく、意欲的に表現しようとする子どもを育てていきたいと考えている。

2. 実践の流れ

「美原動物ランドをつくろう！」

- 1) 自分たちだけの「美原動物ランド」をイメージする。……1時間
- ①. 校庭に自分たちだけの動物ランドをつくることにして、どんな動物がいたら楽しいか、想像して簡単にスケッチする。
- ②. 動物ランドに登場する動物たちや、その周りの情景についても想像させ、発表させると同時に、他にイメージを広げ、活動の意欲を高める。
- 2) 自分のイメージに合わせて材料を集め、それらを使って、登場する動物たちなどを作る。……3時間
- ①. 集めた材料を使って、自分が作りやすい方法、好きな方法で、主になる動物たちやその周りにあるものを作る。
(どちらから作ってもよいことにする。)
- 3) 動物たちを動かしながら遊ぶ。…1時間
- ①. 遊びを通して、発想の面白さや、表現の楽しさなどを互いに味わう。

3. 指導の実際

- 1) 「美原動物ランド」をイメージする。
 - ①. 校庭に出て、どんな動物がいたら楽しいかをイメージさせる。
 - ・子供たちが普段触れ合っている動物、図鑑に載っている動物、動物園に行つて見た動物など、多様に想起する。
 - ②. 想起した動物たちのなかから、自分の作りたい動物を選び、それぞれの動物にあった情景を奮起させる。
 - ・経験をもとに、情景はできるだけ具体的にイメージする。
- 2) 動物たちを作る。
 - ①. 自分のイメージをもとに材料を考えさせる。
 - ・割り箸、紙粘土、たこ糸、画用紙類は教師が用意するが、その他の材料は子供たちと話し合い各自で準備させることにした。
 - ②. 主になる動物と情景など関連させながら作る。
 - ・自分の好きな方法、作りやすい方法で作る。
 - ・大きさや形、色など自分らしさを大切にす
 - る。
 - ・特徴的な活動や表現を見つけたら、取り上げてみんなに示し、活動の意欲を高める。
 - ③. 作ったものを実際の場所に移し、活動を広げる。
 - ・動かしたりしながら、さらにイメージを膨らませる。
 - ・教師が個々に話をしながら、動物や情景のイメージを広げる。
 - ・友だち同士でのかかわり合いも大切にする。
 - ・それぞれの表現や主張を積極的に認め、安心して自己表現、自己主張する環境をつくる。
- 3) 動物たちで遊ぶ。
 - ①. 遊びながら、自己主張の楽しさや満足感を味わわせる。
 - ・自分の作った動物の話をしたり、友だちの作った動物の話の聞いたりして、友だちの表現のよいところを見つける。

4. まとめと今後の課題

活動のきっかけをどの様に作りだすかが、活動の流れを作る原動力になる。子どもたちの興味や関心の高い内容を取り上げ、描いたり、作ったり、表現することの楽しさや面白さを味わわせることを考えなくてはいけない。そのことが、「自分らしさ」の発見、追求していくような活動につながる。「自分らしさ」を発見、追求するはずの活動が、一部の見方や大人の考え方によって否定されたり、つぶされたりしないような環境を整えておくこと。また、どのような見方や考え方、方法や表現であっても、平等に扱い評価できるように、教師の技量を高めることが今後の課題である。

・・〈提言〉小学校【版画 複式】

◎楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動

と共感し寄り添う指導

～自分らしい表現方法を

選択し楽しくのびのび

と表す版画の指導～

<第2分科会>

留萌市立藤山小学校

氏名 佐々木 忍



1. はじめに

今回取り上げた版画指導では、ややもすれば児童の発達段階にそぐわない高度な技術主義・作品主義に走りがちであることへの反省も込めて取り組んでみた。子供たちが「版」による表現の面白さに触れ、本当の喜びや楽しさを味わいながら、造形的な自己表現の能力・自分自身の心と頭と手が一体となった創造力を膨らませていくことができるようにしたいと思う。

2. 実践の流れ

(1) 題材	1年生「楽しいかいじゅう」《紙版画》	3・4年生「一生懸命な自分」《木版画》
(2) 指導の流れ		
◆発想から構想へ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある事柄を題材に選ぶ。 ・思いをふくらませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験した活動から題材を選び出す。 ・思いを率直に表現する。
◆構想を表現に	<ul style="list-style-type: none"> ・紙をちぎったり切ったりして様々な表現をする。 ・部分を動かして考えている感じに近付ける。 ・刷りあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録写真を利用する。 ・白と黒のバランスを考えて描く。 ・多様な技術方法から自分にあった表現方法を選ぶ。 ・刷りを工夫する。
◆制作を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・版画のおもしろさを発見をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品のよさを味わう。

3. 指導の実際

【第1学年】

【第3・4学年】

◆発想から構想へ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知っている怪獣を真似してみたり新しい怪獣を考えたりする。 ・紙にかいたり、お話を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を振り返り自分の一生懸命取り組んだ姿を思い出す。 ・版画に表したい場面を選び出す。
◆構想を表現に	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を好きな形に切ったり、破いたりして試しに簡単な作品を作ってみる。 ・ローラーで作品にインクをつけ、紙に印刷して、紙版画のやり方を知る。 ・自分だけの楽しい怪獣を作る。体や手足を作って、色々な場所を動かしながら作る。 ・刷る時に、版画左右逆になることに気が付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵では表す自分を画面いっぱいに描く。 ・版木に転写する。 ・どこを彫り、どこを残すのかしっかりと確認しながら墨入れをする。 ・いらなくなった板に彫刻刀で好きな模様を彫って練習する。 ・出来上がった模様を墨を塗り半紙に写す。 ・輪郭の線彫りや立体感を出す工夫をし作品を彫る。 ・インクの濃さやパレンの使い方を工夫しながら刷る。
◆製作を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいったところ工夫の必要なことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品のよさや自分の作品の工夫等を話し合う。

4. まとめと今後の課題

複式学習の利点は、下学年が上学年の活動を参考にできることである。自分の作品に取り入れたり、工夫したあとが多く見られた。逆に、上学年の子供には教師のアドバイスが技術向上に関して大きな影響を与えることになる。今回、版画集を利用したことによって多様な考えを出すことができた。今後の課題は「発想の広げ方」である。

・・(提言)【小学校高学年デザイン】

感性を大切にし、表現する喜びを
味わわせる

デザイン指導のあり方

<第3分科会>

斜里町立以久科小学校

氏名 石橋 一郎



1. はじめに

現代の子供は、様々な情報の中で暮らしている。テレビやコンピューターから溢れ出る、色彩、形、大量の製品。ファッションや流行の中で受け身で生きる事に慣れてしまい、思考や表現に広がりや深まりが感じられない。

本来の創作活動は選び決定することの連続からなるといつてよい。情報・素材を収集し取捨選択、決定する中からイメージが形作られ個性が形成されていく。このことは、思考の深まりや表現力の深まりとは無縁なものではない。

授業の場面では、子供が、思いどおりの作品ができないことや、人と比較することで表現する意欲を喪失してしまう場面に出くわすことがある。

創造的な体験を数多く経験させることが、現代の子供にとって大切なことは、誰しもが認める所であろう。

技法や手段を自分なりに考えて表現するところに図工科の本来の意義があるからである。完成作品の評価のみに終わらず、その活動過程を大切にすることや、鑑賞活動によって様々な作品のもつよさを理解する活動を重視することは言うまでもない。しかしながら、自分なりに納得できる作品を作ることによって次の作品への意欲付けになることは確かなことと思われる。そうだとするならば、教師の支援は技術や技法なども含めてどのようにあるべきなのだろう。児童の造形的な発達段階も含めて今後さらに具体的に突っ込んだ話し合いが必要なことと思われる。

2. 実践の流れ

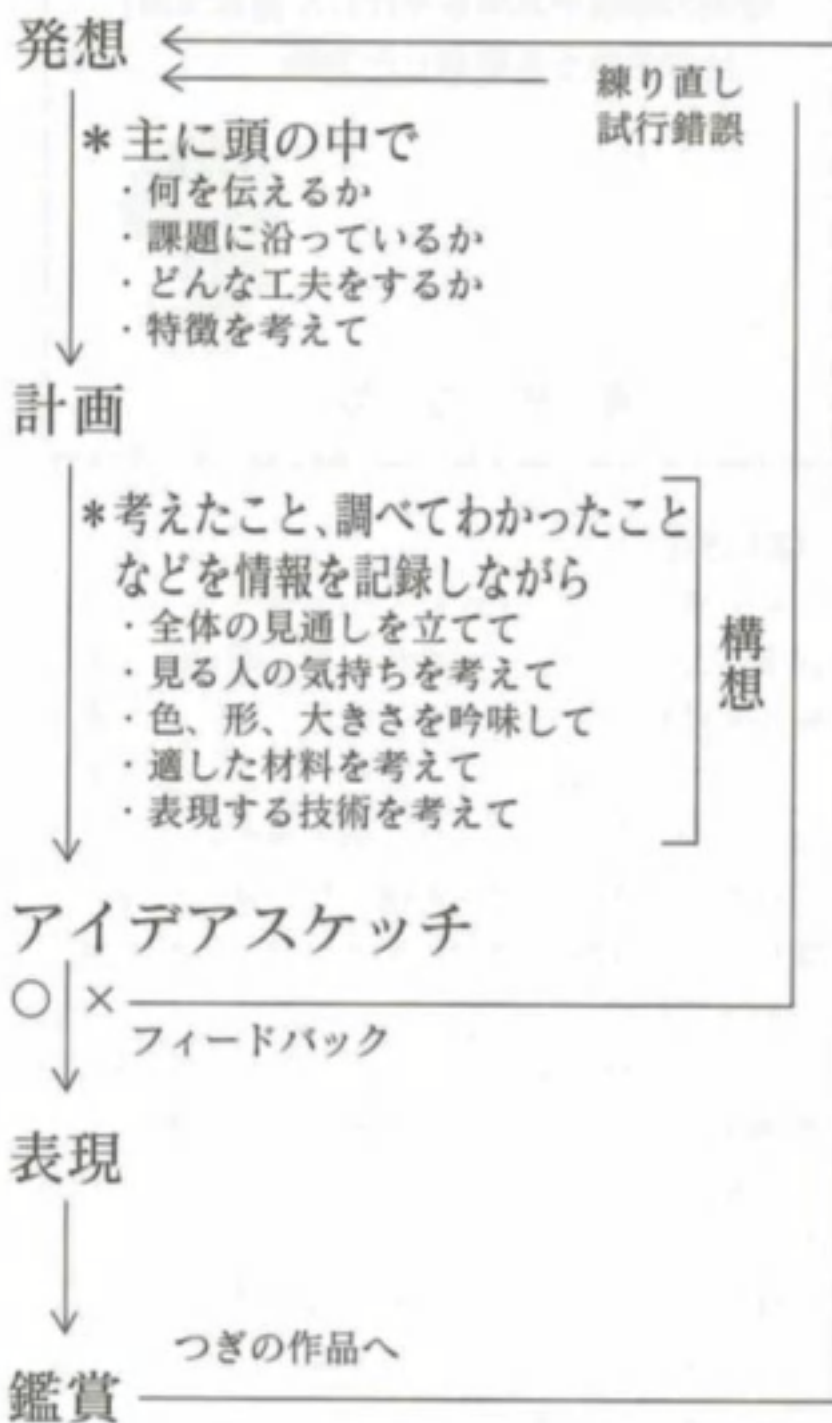
生き生きと楽しく表現させるために、基礎的な力を育成するとともに、自分なりの表現の仕方を考え、自信を持って意欲的に取り組んでいく力を育てたい。特に小学校の場合は、デザインという領域にとどまらず(学習指導要領では、絵で表す)もっと広範な領域で考えてみた。

研究の内容

- ア. 色彩感覚を育てるための色彩指導
- イ. 課題に沿った形や画面構成の指導
- ウ. 発想構想の段階を重視した授業

3. 指導の実際

デザインの制作過程



4. まとめと今後の課題

デザインの指導の流れを大まかに表すと上の表のようになるのではないだろうか。しかし実際に小学校で行われる授業の中には、実際に子供たちが作品を制作する場合に、発想や構想の段階で、完成作品を予想してから作るのではなく、作りながら考える場面も多いのではなかろうか。

完成を予想しつつも、作りながら新たに生まれた発想や発見を大切にすることも大切であろう。

今回持参した作品は、実際にその作品を手掛ける中で、意外な効果が生まれることを子供たちが発見しながら制作したと言えるだろう。

どちらにせよ、子供の感性に響く、題材や材料の与えかたが、非常に大切なこととなる。また、子供の想像力を育成するためには、教師の支援の在り方や、発達段階にそくした基礎基本の定着が大切である。

・・・〈提言〉小学校・全学年

「地域の環境や素材を生かした造形活動」
～地域の粘土を利用した活動～

〈第4分科会〉



幕別町立中里小学校

氏名 和田 浩 司

1. はじめに

私の勤めている学校は、川と林、そして畑に囲まれた中にある、児童数10名、職員数4名の極小規模校である。図工の授業については複式（1～3年と4～5年）で行うのが基本であったが、児童数の減少に伴い数年前からは全学年同時間にできるだけ同領域で行うようになった。題材により全学年合同や学年で分けたりと様々な形態で行っている。

また、題材により担任団を中心に全教職員で指導するTT方式を取り入れるなど学校全体で取り組んできた。

以上のような点から、今回の提言については私個人のものでなく、学校全体のものであること、低学年を含む全学年を対象としたものであることをご了承願いたい。

2. 実践の流れ

当校では、図工科を中心に、子どもが身近に感じられる地域の素材や環境をどのような教材として活用できるかを検討してきた。その中から、ここ数年取り組んできた粘土を使った表現活動を紹介するものとする。

学校のすぐ近くを流れる川の河原には2種類の粘土層が随所に露出している。大部分は砂が多く混じったものであるが、中には砕いて練れば児童にも扱いやすい粘土に変わるものもある。また、地域の一部の畑の下からも別の粘土が採れ、これらを活用した活動を続けてきた。内容的には、

①地域の素材を児童自ら探し調べ教材化するという裁量の時間を使った地域学習（ふるさと

学習・児童会活動）の面。

②図工教科として表現活動を主体とした面。とに分けて行っている。①に関しては図工教科での取り組みではないが、図工に関わる造形活動の一環として押さえている。

3. 指導の実際

①粘土探し～粘土作り（地域学習）

- ・全校児童で川原や畑に行き、粘土を探す。
 - ・スコップ等で塊状態の粘土を砕き採取する。
 - ・乾燥させ、さらに砕き、ふるいにかけて粉末状と小片に分ける。
 - ・A：粉末状→水で練って粘土にする。
 - ・B：小片→水に溶かし泥状にした後、水分を減らし粘土にする。
- またはA、Bを混ぜ合わせ粘土にする。

②造形活動（数年の活動から）

○図工教科としての活動

- ・使うものをつくる（楽焼）全学年
 - ・ウサギをみて作る（素焼き）全学年
 - ・建物を作る（楽焼）高・全学年
 - ・塊を彫って作る（彫刻）高学年
 - ・はたらく人（彫塑）高・全学年
 - ・好きなものを作る（野焼き）全学年
 - ・キャンドルスタンド（本焼き）全学年
- 《2種類の粘土と砂を利用。地域素材100%の本焼き作品》

○地域学習（児童会としての活動）

- ・素焼きの鉢植え作り
 - ・素焼きのマスコット作り
- 《児童会で取り組んでいる特別養護老人ホーム慰問や交通安全キャンペーン用に製作》

4. まとめと今後の課題

子ども達は、今でこそ当たり前のように思っているが、当初は、岩みたいな塊が柔らかい粘土になること、出来た作品が堅い焼き物になることが驚きであったようだ。粘土を使った活動は中里の特色ある活動として毎年続けてきたが、その結果、子ども達の造形活動に対する意欲・関心も高まってきているように思われる。

今後は別の観点で子ども達が驚き、興味関心をもてる題材を検討していく必要がある。

・ (提言) 小学校【4年生】

- ・ 創作意欲を喚起するために
- ・ 学校環境を生かした表現

<第5分科会>



帯広市立開西小学校

氏名 山口 雅子

1. はじめに

今年4年生4学級153名の図工を担当することになった。初めにそれぞれの図工に対する思いをカードに書かせてみると、「図工が苦手」と書いた子や「好き」と書きながら苦手な分野をあげている子が目立った。

低学年では、のびのびと表現していても4年生あたりを境に図工嫌いになってしまうと言われている一般論がこの4年生にも当てはまっていたことがわかり、「図工が大好き」「図工は得意だよ」と言える子供をたくさん増やすために、どうしたら良いか考えてみることにした。

まず、はじめに科学的根拠を示したり、技法の壁を取り除いてやる必要があると考えた。

次に想像力や意欲を喚起できる題材や材料を見いだす事も大切だと考えた。

それに、開西小では、玄関ロビーがある。そこは光が十分入ってきて明るい空間であり、多人数での作業も可能な広さがある。更にガラス戸が多いため、そこにぶつかり怪我をする子が続き、何らかの方法を模索していた時でもあった。そこで、この学校環境を図工の学習に生かせるのではと考えた。

2. 実践の流れ

「私の記念日」……………絵画
 人体の骨組みの図、頭とのバランス
 描画材料の使い方
 (絵の具、筆、パレット)

「二人で」……………粘土
 粘土の特性、頭とのバランス、腰やおしりの重要性、手足等細部の技法

「大きく大きく」……………造形遊び、絵画
 画材開発、表現空間の工夫

「風の音、風の形」……………工作
 用具の扱い方

「材料は生きている」……………造形遊び、立体
 材料の用具の発見

3. 指導の実際

「私の記念日」(2+2)

人体の骨組みの図、頭とのバランス

「二人で」
(2)

基本形
を作る

ミニトマト位の頭をひねり出す
中心部まで切れ目を入れ足を作る
腕をひねり出す

[様々な体型に動かし形を決める]

細部の
技法を
示す

掌、足の先の作り方
くっつけ方(どべ)
首や背の粘土の移動
腰、お尻の重要性

※2教材との
関連性を持
たせた事で
人体の形へ
の抵抗が少
なかった

「大きく大きく」(2+2)

導入

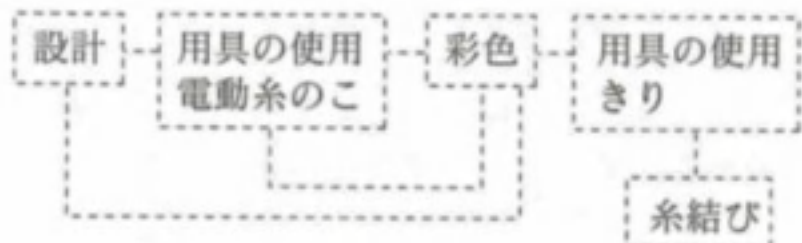
玄関ロビーに集合
題材、テーマを決定
画材を提示

※新しい描画
材料や空間
により意欲
的に取り組
んだ。他の
学級の活躍
の足後も見
える。

制作

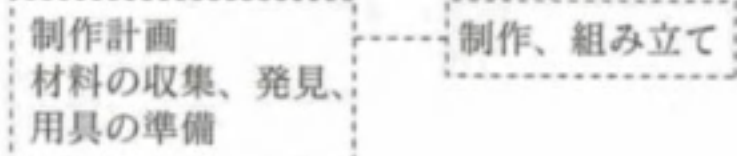
振り返らせる。
鑑賞しあう。

「風の音、風の形」(2+2)



※作業は、用具の扱い方が全員に確実に理解させた上で行った。又、作業の流れもロス時間がないように工夫をしてみた。

「材料は生きている」(3)



4. まとめと今後の課題

自己評価カードで各自の制作を振り返えさせ次の学習への意欲に繋げてきた。又、教師からの言葉も記入し、個々が次の学習での取り組みのきっかけが掴みやすいようになってきた。

4月当初に「苦手」と書いた子供の中から少しずつ「好き」「楽しい」という呟きが聞こえるようになってきた。

・・ (提言) 中学校

「うまい・ヘタ」とは何か？

～中学生への描画指導の問題点～

＜第6分科会＞



根室市立厚床中学校

氏名 和 嶋 弘 美

1. はじめに

今年で教員になって6年が過ぎようとしている。全校生徒50人にも満たない学校ではあるが、美術を教えるにあたって、どんな年でも共通して感じることもある。それは、皆一様に「自分はまわりから見てうまいほう（またはヘタ）だ」という気持ちにとらわれているということである。中学生は、まわりとのかかわりあいから「自分」を確立していこうとする年代である。そのため、自分がまわりからどう見られるかを非常に気にしている。もう一つは、小学校時代に長い時間をかけて作られた「自分はそっくりに（または、早く・きれいに・ていねいに）描けないからヘタなんだ」という思いである。大きくはこの2つの思いが障害となって、生徒の「描こいう気持ちをしほませ、美術を楽しめないものう」とにしているのではないだろうか。それならば、その2つの障害を逆手にとって、美術への意欲を高める手立てはないものかを考えたのが、以下の実践である。

2. 実践の流れ

〈手立てナシ期〉（1年目）

とは言うものの、はじめに私が陥ったのは、画用紙とモチーフを置いて「はい、描きましょう。」というものであった。学校が荒れていたことも手伝って、描画指導は全くできなかった。もちろん、一番の問題は、生徒に何を教えるか自分自身の考えがサッパリ整理できていなかったということだった。

〈手立てをもとにやってみよう期〉（2年目～）

一年目の後悔から学んだことは、「ある程度の制約や約束事がないと、生徒はかえって活動しづらい」ということであった。その後悔をもとに、「〇〇すると△△できるようになる」という、生徒にとって小さくても満足感が残る「手立て」にこだわった。誰もが「うまく」描け、満足感が残れば「うまい・ヘタ」という気持ちから、一歩進んで「自分で納得のいくものを作

ろう」という気持ちを持てるのではないかと考えたためである。

3. 実際の指導

（詳しい内容については、提言資料を参照）

・ 1本線の指導（1年生）

小学校から持ってきた「うまい・ヘタ」と言う気持ちを取り除くため、作業に細かい制約をして、且つ完成したものにあまり差が出ない指導。

【ポイント】力を込めてゆっくり描く
よく見る 二度描きしない
消しゴムを使わない

ポイントにしたがって制作すると、どうしても真剣にならざるをえない。そして、真剣な制作態度からは、素晴らしい形が生まれる。この題材を通して、真剣な制作態度を育てることも目標にしている。

・ 人物画の指導（2年生）

人物画に対しても、生徒は「うまい・ヘタ」意識が強い。これも「うまく描けた」という気持ちを一度は持たせたい題材である。

【ポイント】段階をおって指導する。

- (1) モデルの雰囲気が一番あうポーズを探す
- (2) 体のそれぞれのパーツのクロッキー
- (3) それぞれのパーツのつながりかたのクロッキー
- (4) 全体の雰囲気をとらえる色使い

・ 彩色指導（各学年）

水彩絵の具に対する「うまい・ヘタ」意識も生徒は強い。また、水彩絵の具に対する拒否反応から「美術はきらいだ」という生徒も多い。あえて塗り方を指定することで「みんなと同じに描けた」という気持ちをまず持たせようとした指導。

【ポイント】正しい道具の使い方の指導
水彩絵の具にこだわらない彩色

・ 鑑賞指導（各学年）

人の作品や制作態度の「よさ」を認められる目を育てる。批評会などを通して、具体的に「よさ」を言葉にできるようにする。

【ポイント】鑑賞の「ポイント」を設ける。
定期的に批評会を行う。

4. まとめと今後の課題

細かい満足感の積み重ねで、美術に対する拒否反応は小さくなっていると思う。ただ、こちらから与えた「手立て」に対する反応はいいのだが、予想された以上の発展は少ないように思う。また、限られた人数の中でお互いを刺激し合う制作をするには、それぞれのよさを認めあう姿勢が必要である。これからはその2つに課題を絞り、それぞれの個性を伸ばす指導をしていきたい。

・・・〈提言〉[中学校1年生] 絵画+デザイン

「発想の面白さを味わい、互いの個性を
理解し合う為の表現指導」

・100万年後の昆虫の姿

〈第6分科会〉



根室市立和田中学校

氏名 三浦正輝

1. はじめに

1年生は男子10名、女子6名の小人数のクラスである。それ故、個別指導は比較的容易に行う事が出来る。しかし、その反面、表現方法が画一化されやすく、各自の自由な発想や個性を引き出すという面においては、生徒個々がこれまでに誰に教わるでもなく身につけて来ている

「写実性重視」の固定概念に邪魔をされ、それを取り除く為に、以外なほどの時間と労力を費やすことになる。こうした点を考慮し、1年生は1学期のなるべく初期の段階で「発想の面白さを楽しむ事の出来る題材」を意識的に取り入れるようにしている。

2. 実践の流れ

- ・100万年後の地球環境はどのようなものになっているかを想像してみる。
- ・環境に適応する為に昆虫はどのような進化を遂げているだろうか。
- ・(昆虫の生態、形状の特徴、模様や色彩、周囲の状況)等のイメージを膨らませ、幾つかのラフスケッチをクロッキー帳に描いてみる。
- ・発想や形の面白さを重要視し、気に入った要素を合体させてイメージを一つにまとめ上げる。
- ・ポスターカラーの特質を大まかに説明する。

上記のような手順で製作は進められて行くのだが(形状の簡略化・補色等の色彩指導・デザイン筆の選択方法)等の詳細な指導は意識的に避けて製作に入らせるようにしている。

3. 指導の実際

色と形に対する「意識の解放」を狙いとして、着色にはポスターカラーを使用してみた。生徒達にとっては初めての画材という事もあり、興味を持って製作に取り組んでいたようである。

今回の題材は敢えて「絵画」「デザイン」といったジャンル分けはしていない。出来上がった作品の中には、人間に近い進化を遂げた昆虫もいれば、機械化された昆虫もいる。そして、そうした想像画の中には、今後、デザインという分野に移行する際に必要とされる各自の感性の中から生み出されるオリジナルな「色」と「形」がふんだんに含まれている。

また、「100万年後」という無謀な設定が「なんでもあり」の世界を作り上げ、そうした開放的な状況が、「発想の違いや個性の違いを楽しみ、互いを理解し合う」といった今回の目標を達成する上で大きく貢献してくれていたようにも思える。

4. 今後の課題

実践の中で失敗から多くを学ばせる為に、今回は意識的に導入時に於ける詳細な指導を避けて製作に入った。確かに、生徒が何らかの「つまずき」に遭遇した時点で個別に教えることの方がより効果的ではあるのだが、個別指導の困難な大人数のクラスではこのような指導方法では障害が出る事も考えられる。

加えて、このような題材には作品の中に作者の多くの「物語り」が込められており、絵画作品として評価する際には、教師側の評価基準の幅を一層柔軟なものとしておく必要があることを痛感させられた。

〈提言〉中学校【工芸】

『手づくりを通して育てる感性』
銅板の打ち出しでつくる

〈第7分科会〉

中標津町立広陵中学校

氏名 角田尚美



1. はじめに

身の回りを見渡して、“手づくり”されたものを探してもそれほど見つからない。

現代の私たちは機械でつくられたものに多く囲まれて生活している。そんな環境に育つ子ども達に、自分の手で、時間をかけ、手間をかけて“つくる”という新しい体験を通して、豊かな感性を育てられたらと考えた。

材料に自分の手で生命を吹き込み、形のないものから形あるものをつくり上げていく喜びは子どもの心を豊かにするだけでなく、生きる喜びを実感し、よりよく生きようとする力の育成にもつながるのではないだろうか。

2. 実践の流れ

“手づくり”がテーマなので身近にあり、親しみのもてるものをなるべく取り入れた。

材料は、毎日必ず手に取りなげなく使っている素材であるものの、固く冷たい性質ゆえにか、どちらかという取っつきにくい印象が強い。なかなか手軽にできないと思われがちな金属の加工にあえて挑戦し、材料と改めて向き合い、作品をつくり終えた後の充実感を味わう。材料に対しての愛着と一步踏み込んだ関係を結ぶこと。例えばどこかで一枚の銅板の断片に出会った時、「これはたたけばふくらむんだ。」とか、「ある程度熱を加えればねばりがでてふくらませやすくなる。」でもよい。今までと違った見方ができるようになればしめたものである。

打ち出すテーマは「根室に生息する生きもの」とし、豊富な地域の自然に改めて目を向けさせた。

たたき台は古雑誌、木たがねは丸い木の棒を削りだして手づくりする。

装飾性をもたせるため、打ち出した図柄にふさわしい木彫の額を制作する。

げんのうも各自持参する。

3. 指導の実際

取り組みは2年目である。いずれも中学1年生で本年度は1学期に行った。

遠近感を半立体の高さの違いで表現する難しさなどあったが、打ち出す時の手ごたえの魅力、打ち出す過程での失敗の少なさから誰しも最後まで熱中して取り組んでいた。

4. まとめと今後の課題

美術に苦手意識をもっている生徒でも、打てば→出るのくり返しはきらいではないらしい。コンコンと手を通してつたわってくる感じ、ひとつひとつ打ち出される瞬間の材料と響きあうその時に、まさに子ども達の感性が磨かれている瞬間を感じた。

本年度は手軽なセットもので制作したが銅板が薄く小さいので打ち出しごたえが少なく材料の検討が必要である。

道具の使い方、技法についての基礎、基本的な所の押さえは導入部でしっかりと行ったつもりでもいざ作業に入ると、あちらこちらで呼ぶ声がある。「先生ー！」おまけに進度に大きな差があり、時間いっぱい生徒の対応に追われている状態である。作業手順の確認や自己計画表の作成など、工夫と改善が必要である。

・・・〈提言〉中学校2年生【工芸】

『アイデアから
作品に仕上げていく力』

〈第7分科会〉

江別市立江別第二中学校

氏名 西村 司



1. はじめに

管内の研究会に参加した折りに、この「組み木パズル」の実践報告をされた先生がいたのをきっかけとして、私も同様の題材に取り組んでみたいと思った。簡単に言えば、ただ2枚の板を糸のこで切って着色しただけの作品なのだが、その報告の中で「生徒の関心が高く、満足感をもって作品を完成させていた」という点がとても印象に残っていた。

似たような題材の中に、描かれる絵柄とは関係のない形で部品（ピース）を切断したり、あらかじめ切断された厚紙に絵を描いていくいわゆるジグソーパズルがあるが、こちらの題材については、いままで魅力を感じなかった。それは、出来上がってからの遊ぶ楽しさについてはそれ程の違いはないであろうが、アイデアをまとめる際の造形的な楽しさに乏しいのではないかと思うからである。

しかし、本題材は工芸の領域としては何か足りないものがあり、その分デザインの領域と重なる部分がある複合的な題材でもある。

2. 実践の流れと指導の実際

改訂前の日本文教出版の教科書では、1年生の中に取り上げられていたのであるが、本校では2年生題材として扱うことにした。

工芸の学習では、制作後生活の中で生きてくるものを作ることになる。「遊び」という生活の中で生かされるのがこのパズルであるといえる。

今年で取り組んで2年目ではあるが、前年度の生徒作品は全て返却してしまっていて制作前のイメージを持たせづらかったのだが、同じ材料で作られた小学校6年生のパズル作品を参考作品とした。

まず、実践の流れとして、日文の指導書通りの進め方で導入した。画用紙で簡単なパズルをつくり、お互いに遊びながらパズルのおもしろさを味わった。

次に「はめ絵遊び」をして形からの発想練習を試してみた。このへんは、デッサン力とか観察力とは一味違う能力が発揮されたと思う。見立てる能力、悪く言えばこじつける能力のようなもの。

そしていよいよ、アイデアスケッチにて展開していった。ここではピースの具象形にテーマ性を持たせながら考えさせたが、まとめあげるまでの時間はかなり個人差の出た所であった。

電動糸のこによる切断については、機械の台数は班の数だけ欲しいところであったが、怪我もなく集中して取り組んでいた。

紙やすりがけは、切断面をなめらかにする目的で行うが、入り組んだ形のピースで苦勞したり、かなりの執着心で汗を流す者など様々。

着色については、木材を使った作品の場合は素地の美しさを生かす方向で考えるのが普通であるが、ベニヤ板についてはあまりあてはまらないので、ポスターカラーによるベタ塗りの方法で行った。この上に水性ニス塗装したので、いよいよ木材らしさを否定する仕上げになった。

3. まとめと今後の課題

- 業者のキット教材の画一性。
- 平面に近い立体という、工芸の題材としての中途半端さ、等。

・・・〈提言〉高等学校

コンピュータを使って絵を描こう
～コンピュータを使っての実践例～

〈第8分科会〉

北海道根室西高等学校

氏名 安藤和也



1. はじめに

今の子どもたちの身の回りには様々なコンピュータ機器が氾濫している。ゲームや家電製品など、今後さらに生活の中に入り込んでいくことだろう。今までの私も“手の跡の残った作品”を作り出すことにこだわってきたが、現在の状況の中で～子どもの個性を引き出す～という命題のもと、道具（ツール）としてのコンピュータを効果的に導入していくことが不可欠である。そしてコンピュータと今までの造形活動を関連させ、青年期の発想を刺激し創造性を高めていくよう取り組ませたい。

2. 実践の流れ

コンピュータのメリットとは…

- ・作業の簡便さ
- ・スピード
- ・バリエーションの多様性
- ・仕上がりの美しさ

があげられる。これを踏まえて、1年生は基本操作に慣れる、情報機器室での利用のルールを身に付けさせる。2年生は文字の入力と操作の応用や深化、そして様々なバリエーションの展開。特に1年生では、コンピュータの授業に入る前に、根室の四季を感じる立体構成（デザイン）を行い、コンピュータはその単元の深化というニュアンスも含んでいる。コンピュータは

一人1台に割当たっている。

3. 指導の実際

- 1時間目 ○コンピュータと生活の関連性
○情報機器室の使用法
○コンピュータの名称(美術通信第21号)
- 2時間目 ○マウスの使い方 (美術通信第22号)
○コンピュータの起動
○コンピュータの終了
- 3時間目 ○点を描く (美術通信第23号)
○直線、曲線を描く
○消しゴム
- 4時間目 ○色の塗りつぶし (美術通信第24号)
○色の選択と調整
- 5時間目 ○保存と呼び出し方
- 6時間目 ○プリントアウトの方法
○プリンタの使い方(美術通信第24号)
- 7時間目 ○課題制作
↓
斜投影の図形を描き、立体感を感じるよう色を塗る。ただし色は春、夏、秋、冬を感じる配色でそれぞれ塗る。
- 10時間目

————— 昨年の実践例〈1年生〉

4. まとめと今後の課題

コンピュータを通じて、積極的な取り組みを見せる生徒が多くなった。しかし、課題制作では、既存のキャラクターに頼りオリジナリティに欠けていたり、すぐ“全面消去”をして、制作の積み上げがなく造形活動の深まりが足りない生徒も多い。ただ、手先が不器用な生徒にとっては、コンピュータのマウスは有効な描画道具として活用していたと思う。また生徒といっしょに教師も楽しむ心の余裕も必要だし、“美を味わう第一人者”としての役割を教師が果たさなければいけないと感じている。

〈提言〉高等学校

〈第8分科会〉



北海道札幌丘珠高等学校

氏名 本田 勝 哉

1. はじめに

物質的に恵まれ、過剰な程の情報に囲まれている現代社会。教育の場にもコンピューターが導入され子ども達はあらゆる場面で便利で幸せな世界に浸っている。その現実が別に悪いわけではないが…。

しかし、本来、自分の頭で考え手で物を作り上げていくこと（創造活動）、又、その行為に時間をかけ苦勞しながら一つの物を作る喜び（成就感）といったものが、次第におろそかにされ失われて行くのではないかと、不安を感じている。特に、高等学校における芸術教育が、一向に改善されぬ受験教育や、ますます広がる主要科目の偏りの中で、軽く扱われ始めている現実に危機感も抱いている。

そこで、独善的にも聞こえるが、時代の流れに逆行しているような美術教育の狙いを抱いている。

つまり、「絵を描くことは難しいことではなく、本来は楽しいことであり、素直に自分の心を表現することである。」を、2年間の美術を通じ生徒らに実感させることを願いとして授業を組み立てている。

2. 実践の流れ

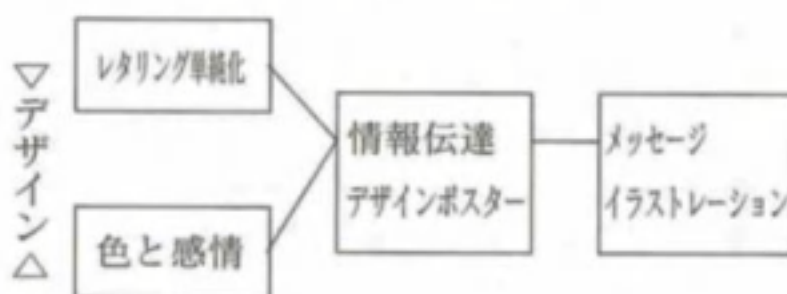
	1 学期		2 学期		3 学期
1 年	レタリング 単純化	細密 描写	色と 感情	情報伝達 デザインポスター	自画像
2 年	油 彩 (静物)		メッセージ イラストレーション		油 彩 (イメージ)

3. 指導の実施

前出の2年間の授業計画はあくまでも課題内容を並べたものに過ぎないが、実は下記のように系統立てて考えている。生徒は別々の製作に取り組んでいるように思っているが、次の段階の課題をより意欲的に取り組めるように設定している。



基礎…応用…発展



また、1年前半における作品は、ある程度の条件や制限のもとに、技術の習得やアイデアを深めさせ計画的に製作を進られることを目的としている。

反対に、1年後半「油彩」と2年前半「ポスター」では、新たな素材による表現手段とB3版イラストボードでの大作に挑戦させることにより、時間をかけじっくりと作品に向かう姿勢を育てている。

そして、描画・デザイン両分野での集大成として自己の心の言葉を他者へ伝える自由な表現まで高めさせていきたいと考えている。(2年後半)

勿論、このような段階を踏まえた製作を進めるためには、導入部での意識づけの工夫や、途中で作家紹介やビデオ鑑賞、デザイン理論などを混ぜながら生徒に美術への興味関心を持たせることも必要である。作品の展示発表やレポート等も効果的である。

4. まとめと今後の課題

美術教師が2年間という短い時間の中で何を教えられるのか。それは決してテクニックや美しいものを作るためではないと思う。美術を通じて自分自身の生き方を探り、美術による表現の重要性を理解してもらうことだと思う。多分、普遍的なものだろう。

「ネットワークから発信する
北海道造形教育の未来」

本部研究部 ネットワークプロジェクト

1 ネットワークの歩み

【平成5年 旭川大会】

- ◆本部研究部の提案を受け、全道造形教育ネットワークの設立が承認される。

【平成6年 釧路大会】

- ◆第1回ネットワーク分科会を開催。
- ◆各支部の現状報告や問題点の交流を行う。

【平成7年 千歳大会】

- ◆大会会場で各支部の作品交流を行う。

【平成8年 札幌大会】

- ◆全18支部の名簿を取りまとめる。
- ◆地域の特色を生かした実践交流を行う。

2 ネットワーク分科会の討議内容

【参加者】

- ◆各支部から最低1名の参加をお願いします。
- ◆その他、関心のある方はご参加ください。

【内容】

- ①新研究主題の設定について
 - ◆21世紀の造形教育のあり方を示す新しい研究主題を18支部の英知を集めて設定していきたいと考えています。根室大会ではそのスタートとして、社会や教育の変化を展望した「根っこ」論議を行います。
- ②教育美術展への審査員派遣について
 - ◆子どもの作品を通して学び合う機会として教育美術展審査会への支部代表派遣を検討します。今年度の審査会での実施に向けて具体的な日程などの提案があります。
- ③パソコンネットワークの設立に向けて
 - ◆全道の研究を結びつける場としてインターネットの活用を検討します。

3 全道18支部代表者名簿 (平成9年6月)

〈道央ブロック〉

- ①札幌市造形教育連盟 桜田 豊
 札幌市立幌西小学校 ☎ 011-561-2201
- ②石狩造形教育連盟 山崎 正明
 千歳市立向陽台中学校 ☎ 0123-34-0551
- ③空知美術教育研究会 渡辺 貞之
 深川市立深川小学校 ☎ 0164-23-4195
- ④連盟後志支部 田丸 公記
 余市町立余市東中学校 ☎ 0135-22-3293

〈道北ブロック〉

- ⑤上川造形教育研究会 長谷川まゆみ
 名寄市立名寄東小学校 ☎ 01654-2-2041
- ⑥旭川市教育研究会図工美術部会 玉手 稔唯
 旭川市立永山小学校 ☎ 0166-48-2811
- ⑦留萌地方美術教育研究会 池田 忠喜
 増毛町立舎熊小学校 ☎ 0164-54-2121

〈道南ブロック〉

- ⑧渡島美術教育研究会 横岸沢英二
 七飯町立大中山中学校 ☎ 0138-65-2221
- ⑨函館市美術教育研究会 鈴木 秀明
 函館市立昭和小学校 ☎ 0138-41-4946
- ⑩檜山造形教育研究会 中川眞一郎
 乙部国町立栄浜小学校 ☎ 01396-2-2160
- ⑪胆振造形教育研究会 常盤 欣也
 壮瞥町立壮瞥中学校 ☎ 0142-66-2367
- ⑫室蘭市教育研究会造形部 矢元 政行
 室蘭市立東中学校 ☎ 0143-44-5076
- ⑬苫小牧市造形研究会 大月 猛
 苫小牧市立啓明中学校 ☎ 0144-67-3115

〈道東ブロック〉

- ⑭十勝造形サークル 出村 英和
 鹿追町立通明小学校 ☎ 01566-7-2466
- ⑮帯広市教育研究会図工美術部会 神 史明
 帯広市立第四中学校 ☎ 0155-24-3511
- ⑯釧路造形教育研究会 森 富輝
 釧路市立美原中学校 ☎ 0154-37-1171
- ⑰オホーツク造形教育連盟 添田 好美
 北見市立緑小学校 ☎ 0157-36-2688
- ⑱根室造形教育連盟 大井誠一郎
 中標津町立中標津小学校 ☎ 01537-2-2565

※本部ネットワークプロジェクト 野切 卓

道教大附属札幌小学校 ☎ 011-778-8607

道北ブロック

⑤上川造形教育研究会

⑥旭川市教育研究会図工美術部会

⑦留萌地方美術教育研究会

全道造形教育ネットワーク

<担当> 本部事務局研究部
ネットワークプロジェクト
教育大学附属札幌小学校

野切 卓

〒002 札幌市北区あいの里

5条3丁目1-10

☎011-778-8607

FAX 011-778-8475

道央ブロック

③空知美術教育研究会

②石狩造形教育連盟

①札幌市造形教育連盟

④連盟後志支部

道東ブロック

⑦オホーツク造形教育連盟

⑧根室造形教育連盟

⑨釧路造形教育研究会

④十勝造形サークル

⑤帯広市教育研究会図工美術部会

道南ブロック

⑧渡島美術教育研究会

⑩胆振造形教育研究会

⑨函館市美術教育研究会

⑫室蘭市教育研究会造形部

⑩檜山造形教育研究会

⑬苫小牧市造形研究会

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする。

2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う。

- ① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援。
- ② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究。
- ③ 機関誌の刊行。
- ④ その他造形教育団体との連絡提携。
- ⑤ その他造形教育振興上必要な事項。

3. 会員

正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員。

賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの。

4. 組織

サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。

本部 本連盟の本部は札幌に置く。

5. 構成及び任務

① 役員

委員長 1名 本連盟を代表する。

副委員長 若干名 委員長を補佐する。

会計監査 2名 会計の監査をする。

② 委員

地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。

常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる。

顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる。

6. 選任

*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。

*地区委員は地区サークルで選出する。

*常任委員は委員長の委嘱による。

*顧問は委員総会において委嘱する。

7. 任期

役員及び委員の任期は1カ年とする。但し再任を妨げない。

8. 会議

*総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。

*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。

役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。

*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。

9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する。

会費 正会員は1人年額2,000円を納入するものとする。

サークルは、年額10,000円を本部に納入するものとする。

10. 事務局

*事務局は事務局長在勤の学校におく。

*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。

*事務局には必要に応じて各部を設け常務の分担をする。

11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の決議による。

(昭和62年5月3日改定)

(平成6年4月29日改定)

(平成9年4月29日改定)

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一貫として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963
子どもが生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965
子どもの造形能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966
子どもの創造能力とは何か。
- 第17回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回（帯広）1972
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。
- 第23回（室蘭）1973
未来に生きる子どもの造形教育（たしかかな表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌）1974
未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。

- 第25回 (江別) 1975
未来に生きる子どもたちの造形教育 (自ら創りだす力をどう育てるか)。
- 第26回 (岩見沢) 1976
未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもの造形のよろこびを)。
- 第27回 (札幌) 1977
(第30回全国造形教育研究大会とかねる)
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回 (函館) 1978
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きととりくむ学習)。
- 第29回 (旭川) 1979
生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回 (苫小牧) 1980
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回 (釧路) 1981
創りだす心をよびおこす造形教育
- 第32回 (室蘭) 1982
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを。
- 第33回 (留萌) 1983
生活とふれ合い、創る心のひろがりを目指す造形活動。
- 第34回 (札幌) 1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)。
- 第35回 (函館) 1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)。
- 第36回 (旭川) 1986
(第39回全国造形教育研究大会とかねる)
子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)。
- 第37回 (紋別) 1987
子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現の喜びにひたる子どもを育てる)。
- 第38回 (滝川) 1988
子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)。
- 第39回 (帯広) 1989
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)。
- 第40回 (苫小牧) 1990
広がり、深まり、そして感動を!
- 第41回 (札幌) 1991
子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひらく)。
- 第42回 (函館) 1992
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)。
- 第43回 (旭川) 1993
思いをあたため心はずませ創る喜びを。
- 第44回 (釧路) 1994
心ときめく、創造の喜びを求めて。
- 第45回 (千歳) 1995
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を。
- 第46回 (札幌) 1996
自らの心を拓く造形学習の在り方
～ 造形=愛感美遊創 in 札幌 ～
- 第47回 (根室) 1997
感性から発し躍動する力を育む造形学習を!

平成9年度 北海道造形教育連盟名簿

役 員

1997.6.

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	吉田 俊雄	札幌市立発寒小長	063 札幌市西区発寒10条4丁目	011(661)2521
副委員長	小杉 信雄	旭川市立神楽岡小長	078 旭川市神楽岡14条3丁目	0166(65)4569
"	石井 久	函館市立日吉が丘小長	041 函館市日吉町2丁目34-1	0138(51)7072
"	鍋谷 尊之	別海町立上西春別小長	088-25 野付郡別海町西春別駅前西町2	01537(7)2050
"	高橋 鎌治	留萌市立留萌中長	077 留萌市千鳥町3丁目	0164(42)1811
"	奥野 郁男	札幌市立向陵中長	064 札幌市中央区北4条西28丁目	011(611)4271
監査	須貝 徹	斜里町立以久科小長	099-41 斜里町以久科南24	01522(3)2915
"	宮川 誠一	江別市立江別第二中長	069 江別市野幌代々木町53	011(382)2456

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	芝木 秀昭	手稲鉄北小長	(681)2287	研究部長	菅原 清貴	三角山小	(643)1133
次長	小尾 喬	すずらん幼長	(782)4350	次長	柏木 順	いなづみ幼	(683)3185
"	伊藤 暢紀	東園小長	(811)8138	"	斎藤 三佳	白楊幼	(736)0764
"	村谷 利一	稲陵中長	(683)3451	"	阿部 宏行	中央小	(261)6568
"	香西 富士夫	札幌平岸高	(812)2010	"	川島 正夫	伏見小	(551)2771
会計部長	富田 泰	屯田西小頭	(773)6105	"	桜田 豊	幌西小	(561)2201
次長	今 裕子	山鼻小	(511)6616	"	篠原 寛	宮の森小	(631)6356
"	植木 則子	西岡南小	(582)8350	"	野切 卓	附属小	(778)8607
庶務部長	永井 恭子	中央幼長	(251)6700	"	阿部 時彦	中央中	(241)6266
次長	池田 悦子	円山小	(631)3437	"	伊藤 尚	米里中	(875)5711
"	今谷 孝	平和小	(663)4384	"	小野 泰裕	山鼻中	(531)9941
"	古谷 壽朗	屯田西小	(773)6105	"	田中 潤	屯田中央中	(771)5981
"	廣瀬 恵子	山鼻小	(511)6616	"	小林 智彦	札幌白陵高	(871)5500
"	合田 典史	前田北中	(694)2320	事業部長	小柳 雄嗣	琴似中央小	(631)6306
広報部長	毛馬内 國夫	桑園小	(611)4211	次長	森 美由紀	いなづみ幼	(663)0363
次長	小泉 誠	開成小	(783)4492	"	稲實 順	創成小	(241)1756
"	土肥 宏充	厚別北小	(894)3011	"	小野 正二	札苗緑小	(792)2480
"	益村 豊	山鼻南小	(532)8340	"	白井 真澄	前田小	(683)3749
"	安木 尚博	幌南小	(521)0214	"	田口 和男	白石小	(861)9265
"	中山 龍雄	手稲西中	(681)3392	"	土井 善範	伏見小	(551)2771
				"	中居 正光	月寒東小	(851)7924
				"	毛利 聡	厚別東小	(898)4650
				"	元茂 章子	美しが丘小	(884)9860
				"	中西 毅	西陵中	(662)9323

事務局

〒006 札幌市手稲区前田2条12丁目
札幌市立手稲鉄北小学校
TEL 011 (681) 2287

芝木 秀昭

FAX 011 (681) 7394

全道造形教育研究大会本部役員

大会本部役員	氏 名	所 属	職 名
大会会長	吉田 倭雄	札幌市・発寒小	校長
大会副会長	石井 久	函館市・日吉が丘小	校長
大会副会長	小杉 信雄	旭川市・神岡小	校長
大会副会長	高橋 鎌治	留萌市・留萌中	校長
大会副会長	奥野 郁男	札幌市・向陵中	校長
大会監査	須貝 徹	斜里町・以久科小	校長
大会監査	宮川 誠一	江別市・江別第二中	校長
大会事務局長	芝木 秀昭	札幌市・手稲鉄北小	校長
大会庶務部長	永井 恭子	札幌市・中央幼稚園	園長
大会広報部長	毛馬内 國夫	札幌市・桑園小	教諭
大会研究部長	菅原 清貴	札幌市・三角山小	教諭
大会事業部長	小柳 雄嗣	札幌市・琴似中央小	教諭
大会会計部長	植木 則子	札幌市・西岡南小	教諭

根室大会実行委員会役員

実行委員役員	氏 名	所 属	職 名
実行委員長	鍋谷 尊之	別海町・上西春別小	校長
実行副委員長	高木 英機	中標津町・計根別小	校長
実行副委員長	小林 哲夫	根室市・花咲小	校長
実行副委員長	宮地 良一	北海道根室高等学校	校長
実行副委員長	山西 幸三	根室市・柏陵中	校長
実行副委員長	渡辺 好之	中標津町・広陵中	校長
実行副委員長	部田 隆久	中標津町・若竹小	校長
事務局長	山口 長伸	根室市・落石小	校長
事務局次長	館山 唯郎	中標津町・広陵中	教諭
事業・会計部長	本川 勝敏	根室市・和田中	校長
研究部部長	大井 誠一郎	中標津町・中標津小	教頭
研究部副部長	煤賀 克文	根室市・幌茂尻小	校長
庶務部長	久保 英樹	根室市・柏陵中	教頭
参与	清水 克美	連盟顧問	指導主幹
参与	桐沢 享	連盟顧問	嘱託職員

47th NEMURO

